

**平成 31(2019)年度**

**シラバス**

**- 2 年次 -**

科目No.	BCS04-2E		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	日本語表現A		担当教員	田中 健 山崎 澄子	木原まり子	
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	人文科学系	選択必修	2単位	前期(30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	<p>他者の表現を理解し、また、他者に理解してもらえる表現をするためには「論理」に従わなければならない。そのためには日本語の論理的な使い方を知る必要がある。</p> <p>本授業では、基礎的な練習を重ね、必要とされるこれらの能力の向上を目的とする。</p>					
学修目標 到達目標	<p>1. 読んだこと、聞いたこと、観察したことを論理的に理解することができる</p> <p>2. 話すとき、書くときに、日本語を論理的に使うことができる</p> <p>3. 論理的関係を図で表現することができる</p>					
授業形態 授業の進め方	<p>少人数クラスを編成し、一人ひとりが授業内容をしっかり把握できるようにする。</p> <p>教科書「論理エンジン」に即した演習で「ものの考え方」を身につけさせる。</p> <p>予習（「論理エンジン」を解いてくる）をしてこない場合、出席として認めない。</p>					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. オリエンテーション + クラス編成						
2. 論理エンジンテスト①						
3. 論理エンジン レベル1 (一文の要点をとらえる p21-34)			該当範囲(p21-34)の予習 (問題を解く)			
4. 論理エンジン レベル2 (言葉と言葉のつながり p35-48)			該当範囲(p35-48)の予習 (問題を解く)			
5. 論理エンジン レベル3 (文の成り立ち p49-62)			該当範囲(p49-62)の予習 (問題を解く)			
6. 論理エンジン レベル4 (文の要点と指示語 p63-73)			該当範囲(p63-73)の予習 (問題を解く)			
7. 論理エンジン レベル5 (助詞・助動詞のはたらき p74-90)			該当範囲(p74-90)の予習 (問題を解く)			
8. 論理エンジンテスト②						
9. 論理エンジン レベル6 (文の作成I p91-103)			該当範囲(p91-103)の予習 (問題を解く)			
10. 論理エンジン レベル7 (文の書きかえ p104-120)			該当範囲(p104-120)の予習 (問題を解く)			
11. 論理エンジン レベル8 (正しい文を書く p121-132)			該当範囲(p121-132)の予習 (問題を解く)			
12. 論理エンジン レベル9 (文の作成II p133-144)			該当範囲(p133-144)の予習 (問題を解く)			
13. 論理エンジン レベル10 (総復習 p145-163)			該当範囲(p145-163)の予習 (問題を解く)			
14. 論理エンジンテスト③						
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト100%	□レポート %	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等	論理エンジンテストを3回実施し、理解度を評価する。				
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	出口 汪	「論理エンジン『論理の習得』OS1」		水王舎	2017	
参考文献	特に指定しない					
履修要件等	日本語力向上プロジェクトの1年次の平均点が一定の基準に到達しなかった者は、優先的に当該科目を履修すること。					
研究室	3号館2階 日本語力向上プロジェクト室		オフィスアワー	毎週火曜日 13:30~15:00		

科目No.	BCS05-2E		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	日本語表現B		担当教員	田中 健		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	人文科学系	選択必修	2単位	後期(30h)	
	作業療法学					
言語聴覚学						
授業内容の要約	日本語の論理を意識しなくても、論理的に考え、論理的に話すためには「論理力」が必要となる。意識せずに自然と論理的に考えることができる力、「論理の習熟」を獲得しなければならない。本授業では、これらの能力の向上を目的とする。					
学修目標 到達目標	1. 複数の文の論理的関係や、文章の要点を理解することができる 2. 理解した内容を正確に他者に伝えることができる 3. 抽象度の高い議論をすることができる					
授業形態 授業の進め方	少人数クラスを編成し、一人ひとりが授業内容をしっかり把握できるようにする。教科書「論理エンジン」に即した演習で「論理の習熟」を身につけさせる。予習（「論理エンジン」を解いてくる）をしてこない場合、出席として認めない。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. オリエンテーション + クラス編成						
2. 論理エンジンテスト①						
3. 論理エンジン レベル 11 (指示語と指示内容 p 4-18)			該当範囲(p 4-18)の予習 (問題を解く)			
4. 論理エンジン レベル 12 (接続後とそのはたらき p 19-36)			該当範囲(p19-36)の予習 (問題を解く)			
5. 論理エンジン レベル 13 (文と文のつながり p 37-49)			該当範囲(p37-49)の予習 (問題を解く)			
6. 論理エンジン レベル 14 (要点をつかまえる p 50-57)			該当範囲(p50-57)の予習 (問題を解く)			
7. 論理エンジン レベル 15 (話題と主張 p 58-69)			該当範囲(p58-69)の予習 (問題を解く)			
8. 論理エンジンテスト②						
9. 論理エンジン レベル 16 (イコールの関係 p 70-80)			該当範囲(p70-80)の予習 (問題を解く)			
10. 論理エンジン レベル 17 (具体と抽象 p 81-90)			該当範囲(p81-90)の予習 (問題を解く)			
11. 論理エンジン レベル 18 (小説・物語の文章 p 91-104)			該当範囲(p91-104)の予習 (問題を解く)			
12. 論理エンジン レベル 19 (作文の基本 p 105-119)			該当範囲(p105-119)の予習 (問題を解く)			
13. 論理エンジン レベル 20 (総復習 p 120-133)			該当範囲(p120-133)の予習 (問題を解く)			
14. 論理エンジンテスト③						
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 100%	□レポート %	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等	論理エンジンテストを3回実施し、理解度を評価する。				
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	出口 汪	「論理エンジン『論理の習得』OS2」		水王舎	2017	
参考文献	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	3号館2階 日本語力向上プロジェクト室		オフィスアワー	毎週火曜日 13:30~15:00		

科目No.	BSS04-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	コミュニケーション学		担当教員	中村 俊介		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	社会科学系	選択必修	2単位	後期(30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	医療現場のみならず、社会生活においてより良い人間関係の構築は必要不可欠なものである。本講義では、コミュニケーションの基本的理論について実例を通して学び、自分のコミュニケーション・パターンに気づき、スムーズなコミュニケーションの方法を理解、身につけることを目的とする。					
学修目標 到達目標	1. コミュニケーションの基本的理論を理解する 2. コミュニケーションに必要な能力を修得する 3. 対人サポートに必要なコミュニケーションの方法を知る					
授業形態 授業の進め方	グループワークを中心としたアクティブラーニングを実施し、活動の中で発生するコミュニケーション上の問題や心理状態等についての解説を行う。筆記用具・バインダーを持参する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション、自分と他者の違い			予習：p 17-20 を読んでくる			
2. 自己概念：「私は誰？」			予習：p 112-115 を読んでくる			
3. コミュニケーションのプロセス			予習：p 80-84 を読んでくる			
4. ミス・コミュニケーションの成り立ち			予習：			
5. Verbal Communication と Non-Verbal Communication			予習：p 100-107 を読んでくる			
6. 自分のコミュニケーション・パターン			予習：p 85-88 を読んでくる			
7. 医療面接①：「臨床実習ロールプレイ」			予習：p 89-92 を読んでくる			
8. 医療面接②：「臨床実習ロールプレイ」			予習：p 93-96 を読んでくる			
9. Priority、Consensus 実習①：「NASA」			予習：p 62-65			
10. Priority、Consensus 実習②：			予習：p 42-41			
11. 集団の中での自分①：BS法、KJ法			予習：p 52-57			
12. 集団の中での自分②：自分の課題の探り方			予習：			
13. 集団の中での自分③：話せない時の自分			予習：p 97-99、p 120-123			
14. 医療現場でのコミュニケーション			予習：p 114-118 を読んでくる			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解説）						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他 %	
	基準等			授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	津村俊充他	「人間関係トレーニング（第2版）」		ナカニシヤ出版	2006	
参考文献	中野美香	「大学1年生からのコミュニケーション入門」		ナカニシヤ出版	2010	
履修要件等	・他者と関わるのが苦手な学生は自分と向き合い、課題を明確に出来るかもしれません。					
研究室	3号館2階 第26研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：30		

科目No.	BNS05-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	医療統計学 I		担当教員	中谷 勇哉		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	自然科学系	選択必修	2単位	前期 (30h)	
	作業療法学					
言語聴覚学						
授業内容の要約	EBM(根拠にもとづいた医療)を行うため、また卒業研究等を行う前提知識として、統計学の基礎と医療分野での活用法について学習する。本講義では、統計的処理が「何の目的で、何をしているのか」を理解することを重視する。					
学修目標 到達目標	1. 基礎的な統計手法の意味や意図を理解できる 2. 基礎的な統計手法の問題点を理解し、統計を根拠とした議論に対し批判的な見方ができる 3. 医療分野における統計学的知識の重要性と限界について説明できる					
授業形態 授業の進め方	基本的に座学だが、適時演習を行う。また、高校数学のデータ分析・確率・統計分野を復習しておくことと理解に役立つ。教科書は特に指定しないが、各自で参考文献を参照し予復習すること。特に、仮説検定・推定の基本的な考え方については繰り返し復習しておくこと。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション (講義の目的等について)			復習: EBM の重要性についてまとめること			
2. 研究手法 (観察的研究、実験的研究)			復習: 研究デザインについてまとめること			
3. 統計の基礎 1 (要約統計量、平均、分散、標準偏差)			復習: 統計量の計算に慣れておくこと			
4. 統計の基礎 2 (サンプリング、標本、中心極限定理)			復習: 中心極限定理についてまとめること			
5. 仮説検定 1 (z 検定、t 検定)			復習: z 検定・t 検定の計算に慣れておくこと			
6. 仮説検定 2 (カイ(χ)2乗検定)			復習: カイ 2 乗検定の計算に慣れておくこと			
7. 仮説検定 3 (演習)			予習: 検定の考え方に慣れておくこと			
8. 推定 1 (区間推定)			復習: 区間推定の計算に慣れておくこと			
9. 推定 2 (リスク比、オッズ比)			復習: リスクとオッズの違いをまとめておく			
10. 推定 3 (演習)			予習: 推定の考え方に慣れておくこと			
11. 相関と回帰 1 (相関係数、共分散)			復習: 相関の概念についてまとめておくこと			
12. 相関と回帰 2 (回帰係数)			復習: 回帰分析の計算に慣れておくこと			
13. 相関と回帰 3 (演習)			復習: 相関・回帰の考え方に慣れておくこと			
14. 統計の罨 (バイアス、交絡、疑似相関)			復習: 統計の問題についてまとめておくこと			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)			復習: 試験で誤答した部分をまとめること			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 30 %	□レポート %	□定期試験 70 %	□その他 %	
	基準等	講義内で小テストを3回ないし4回行い、理解度を評価する。		定期試験において講義内容全般について理解度を問う。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
参考文献	五十嵐中ほか	「医療統計」わかりません!!		東京図書	2010	
	白砂堤津耶	「例題で学ぶ初歩からの統計学」第2版		日本評論社	2015	
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	BNS06-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	医療統計学Ⅱ		担当教員	中谷 勇哉		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	自然科学系	選択必修	2単位	後期(30h)	
	作業療法学					
言語聴覚学						
授業内容の要約	医療統計学Ⅰの発展版として、卒業研究等につながる、より実践的な知識を学習する。統計ソフトを使って演習を行い、理解を深める。また、統計的手法を用いた論文を調査・執筆する基礎的な能力も身に付ける。					
学修目標 到達目標	1. 多変量解析について理解し、必要に応じて自分自身で分析できる 2. 自らの課題を解決するうえで、集めるべきデータや、適切な統計的処理のプランニングが行える 3. 統計的分析を用いた論文の調査・理解・検討・整理を行うことができる					
授業形態 授業の進め方	各単元について、講義の前半では、その手法についての講義とPCでの演習を行い、後半では論文の読解・整理を行う。13・14回ではアクティブ・ラーニングを取り入れ、それまで学習した統計手法を用いた研究計画を立ててもらう。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 医療統計学Ⅰの復習			予習: 前期の内容を振り返っておくこと			
2. 導入と論文読解の基礎			復習: いくつか論文を調べてみる			
3. 二群の差の検定1(講義・演習)			復習: PCでの検定手順に慣れておくこと			
4. 二群の差の検定2(論文読解)			予習: 単元に関する論文を調べておくこと			
5. 多群の差の検定1(講義・演習)			復習: 分散分析の検定手順に慣れておくこと			
6. 多群の差の検定2(論文読解)			予習: 単元に関する論文を調べておくこと			
7. 多重比較1(講義・演習)			復習: 多重比較の手順をまとめておくこと			
8. 多重比較2(論文読解)			予習: 単元に関する論文を調べておくこと			
9. 相関・回帰分析1(講義・演習)			復習: 重回帰分析についてまとめておくこと			
10. 相関・回帰分析2(論文読解)			予習: 単元に関する論文を調べておくこと			
11. 分割表の検定1(講義・演習)			復習: PCでの検定手順に慣れておくこと			
12. 分割表の検定2(論文読解)			予習: 単元に関する論文を調べておくこと			
13. 観察・実験計画1(研究デザイン・計画例の紹介)			復習: 研究デザインをまとめておくこと			
14. 観察・実験計画2(演習)			予習: 計画案を考えておくこと			
期末レポート						
15. 総括及びフィードバック(全講義の振り返り)			復習: レポートを見直しておくこと			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 28%	■レポート 72%	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等	毎回の講義内課題で評価する。		期末レポートにより講義の理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	特に指定しない					
参考文献	柳井久江	「4Steps エクセル統計」第4版		オーエムエス出版	2015	
	対馬栄輝	「医療系研究論文の読み方・まとめ方」		東京図書	2010	
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	BFL04-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	医療英語 I		担当教員	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	外国語系		選択必修	2単位	前期(30h)
	作業療法学					
言語聴覚学						
授業内容の要約	英語は医学の分野においても世界の共通語であり、最新の知見や研究成果は英語で発信されることが一般的である。また、医療現場においても医学用語は英語で表現されることは少なくない。このため、医学英語に精通しておくことは医療人として重要である。本講座では、臨床医学の領域における実践的な英語力を養う。					
学修目標 到達目標	1. 臨床現場で用いられる医学英語を理解できる 2. 英語による医学情報を理解できる					
授業形態 授業の進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。講義には英和辞書（電子辞書も可）を持参すること。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. What is health? (教科書 pp2~3)				講義内容の予習をしておくこと		
2. Exercise for everyone (教科書 pp4~5)				講義内容の予習をしておくこと		
3. Overviewing for the body (教科書 pp6~7)				講義内容の予習をしておくこと		
4. Exercise programs (教科書 pp8~9)				講義内容の予習をしておくこと		
5. History of Rehabilitation (教科書 pp12~15)				講義内容の予習をしておくこと		
6. Physical therapy and physical therapist (教科書 pp16~17)				講義内容の予習をしておくこと		
7. Occupational therapy and occupational therapist (教科書 pp17~18)				講義内容の予習をしておくこと		
8. Speech-language-hearing therapist (教科書 pp18~20)				講義内容の予習をしておくこと		
9. The structure of the human body (The skeletal system) (教科書 pp36~41)				講義内容の予習をしておくこと		
10. The structure of the human body (The muscular system) (教科書 pp45~51)				講義内容の予習をしておくこと		
11. The structure of the human body (The nervous system) (教科書 pp52~59)				講義内容の予習をしておくこと		
12. Disease and Rehabilitation (教科書 pp62~67)				講義内容の予習をしておくこと		
13. Disease and Rehabilitation (教科書 pp68~74)				講義内容の予習をしておくこと		
14. Disease and Rehabilitation (教科書 pp94~98)				講義内容の予習をしておくこと		
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 80 %	■その他 20 %	
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	清水雅子	リハビリテーションの基礎英語 (第3版)		メディカルビュー社	2017	
参考文献	特に指定しない					
履修要件等	英文法、英文購読、一般臨床医学を履修しておくことが望ましい					
研究室	1号館5階 第15研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 10:40~12:10		

科目No.	BFL05-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	医療英語Ⅱ		担当教員	岡田 守弘			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	外国語系	選択必修	2単位	後期(30h)		
	作業療法学						
	言語聴覚学						
授業内容の要約	英語は医学の分野においても世界の共通語であり、最新の知見や研究成果は英語で発信されることが一般的である。また、医療現場においても医学用語は英語で表現されることは少なくない。このため、医学英語に精通しておくことは医療人として重要である。本講座では、臨床現場における実践的な英語力を養う。						
学修目標 到達目標	1. 英語で患者さんと基本的な医療面接ができる。 2. 臨床現場で用いられる医学英語を理解できる。 3. 英語による医学情報を理解できる。						
授業形態 授業の進め方	指定された音声データを各自でダウンロードし、授業前に聴いておくこと。 講義形式で行い、間に質疑応答を行う。講義には英和辞書（電子辞書も可）を持参すること。						
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上	
1. Fever (p2~13)			毎回講義内容の予習をしておくこと（リスニングを含む）				
2. Fever (p2~13)			毎回講義内容の予習をしておくこと（リスニングを含む）				
3. Anemia (p14~25)			毎回講義内容の予習をしておくこと（リスニングを含む）				
4. Anemia (p14~25)			毎回講義内容の予習をしておくこと（リスニングを含む）				
5. Dehydration (p26~35)			毎回講義内容の予習をしておくこと（リスニングを含む）				
6. Obesity (p36~47)			毎回講義内容の予習をしておくこと（リスニングを含む）				
7. Headache (p48~59)			毎回講義内容の予習をしておくこと（リスニングを含む）				
8. Chest pain (p60~71)			毎回講義内容の予習をしておくこと（リスニングを含む）				
9. Cough (p72~83)			毎回講義内容の予習をしておくこと（リスニングを含む）				
10. Abdominal pain (p84~95)			毎回講義内容の予習をしておくこと（リスニングを含む）				
11. Dysphasia (p96~107)			毎回講義内容の予習をしておくこと（リスニングを含む）				
12. Hearing loss (p108~119)			毎回講義内容の予習をしておくこと（リスニングを含む）				
13. Fracture (p120~133)			毎回講義内容の予習をしておくこと（リスニングを含む）				
14. Pregnancy (p134~146)			毎回講義内容の予習をしておくこと（リスニングを含む）				
定期試験（期末レポート）							
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験 80 %	□その他 20 %
	基準等					定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	日本医学英語教育学会	医学・医療学生のための総合医学英語テキスト			メディカルビュー社	2016	
参考文献	特に指定しない						
履修要件等	英文法、英文購読、一般臨床医学、内科学を履修しておくことが望ましい						
研究室	1号館5階 第15研究室			オフィスアワー	毎週月曜日 10:40~12:10		

科目No.	BHS04-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	健康科学		担当教員	中村 俊介		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	健康体育系	選択必修	2単位	前期(30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	予防医学の観点から健康評価のための基本的な測定方法および評価方法を学修する。また、メタボリックシンドロームを含めた生活習慣病を予防するための運動について理解し、日常生活において自主的に身体運動を取り入れた実践的運動処方を学修する。					
学修目標 到達目標	1. 予防医学における体力や健康の意義を理解する 2. 体力測定の技能とその結果の解釈を理解する 3. 集団活動における「学習」を理解する					
授業形態 授業の進め方	講義・実技を併せて実施する。実施場所の確認をしっかりとっておくこと。 実技を伴うので、運動服・運動靴を持参すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション、概論（健康と体力・運動）			復習：課題レポートの作成			
2. 課題概説			復習：正しい専門用語についてまとめる			
3. 形態測定：身長、体重、			復習：形態測定項目、測定方法をまとめる			
4. 体力測定①：筋力、筋持久力、肺活量			復習：体力測定項目、測定方法をまとめる			
5. 体力測定②：瞬発力、柔軟性、平衡性			復習：体力測定項目、測定方法をまとめる			
6. 体力測定③：全身持久力（PWCtest）			復習：体力測定項目、測定方法をまとめる			
7. 体力測定④：Iso-metric Contraction、Iso-kinetic Contraction			復習：体力測定項目、測定方法をまとめる			
8. 体力評価①：筋力、筋持久力、瞬発力、柔軟性、平衡性			復習：体力評価方法をまとめる			
9. 体力評価②：全身持久力			復習：体力評価方法をまとめる			
10. 体力評価③：身体組成、呼吸機能			復習：体力評価方法をまとめる			
11. ケーススタディ①：測定値と評価基準、危険因子			復習：測定値の取り扱い方をまとめる			
12. ケーススタディ②：絶対評価、相対評価			復習：評価方法をまとめる			
13. ケーススタディ③：PWCmax、VO <sup>2</sup> max			復習：VO <sup>2</sup> maxの算出方法をまとめる			
14. ケーススタディ④：運動処方			復習：運動処方のプロセスをまとめる			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %	
	基準等			授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	なし	なし		なし	なし	
参考文献	American College of Sports Medicine	運動処方の指針 原書第8版		南江堂	2011	
履修要件等						
研究室	3号館2階 第26研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16:20~17:30		

科目No.	FBM12-2R, FBM08-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	病理学		担当教員	中村 美砂		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必修	1単位	前期(30h)
	作業療法学					
言語聴覚学	基礎医学					
授業内容の要約	「病気はどんな原因(病因)で起こり、体にどのような変化(病変)を起こすか」を学修し、病気についての正しい理解を行う。前半の総論では、全身の臓器に共通する一般的な原理を述べ、後半では主要臓器を総論の内容に当てはめて進める。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病理学用語を定義に従って用いることができる</li> <li>2. 各種病気の成り立ち、病因について、形態学的変化と関連させて説明できる</li> <li>3. 臨床医学における病理診断の役割を説明できる</li> </ol>					
授業形態 授業の進め方	授業は、教科書と配布プリントに沿って行う。解剖学や生理学などの知識が必要となるので、これらを復習しながら受講すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 病理学とは何か。細胞障害と細胞増殖(教科書 pp.1~19)			進行性病変と退行性病変についてまとめる。			
2. 組織、細胞の修復と再生(教科書 pp.21~28)			創傷治癒の過程についてまとめる。			
3. 循環障害(教科書 pp.29~44)			局所的純痛障害と全身的循環障害についてまとめる。			
4. 炎症(教科書 pp.45~56)			急性炎症と慢性炎症についてまとめる。			
5. [小テスト①] 感染症(教科書 pp.57~66)			病原体の種類とそれらによって生じる感染症をまとめる。			
6. 免疫機構の異常Ⅰ(教科書 pp.67~76)			アレルギー反応の分類とそれぞれの代表的疾患についてまとめる。			
7. 免疫機構の異常Ⅱ(教科書 pp.76~79)			自己免疫疾患についてまとめる			
8. 遺伝と先天異常(教科書 pp.81~94)			代表的な染色体異常症および遺伝性疾患についてまとめる。			
9. 腫瘍Ⅰ(教科書 pp.95~100)			腫瘍の概念と命名法についてまとめる。			
10. 腫瘍Ⅱ(教科書 pp.100~117)			悪性腫瘍の進展と転移様式についてまとめる。			
11. [小テスト②] 代謝異常(教科書 pp.119~128)			代謝異常症の原因と病態についてまとめる。			
12. 老化(教科書 pp.129~142)			老化による細胞・組織・臓器の変化をまとめる。			
13. 循環器・呼吸器・消化器(教科書 pp.143~177, pp.187~215)			それぞれの代表的な疾患について病理学的特徴をまとめる。			
14. 神経系・運動器(教科書 pp.297~316, pp.335~355)			それぞれの代表的な疾患について病理学的特徴をまとめる。			

定期試験 (期末レポート)					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)			試験で不正解の領域をもう一度復習する。		
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 80%	□その他 %
	基準等	指定した講義の内容について小テスト (2回) を実施し、理解度を評価する。		全講義の内容についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	笹野公伸ほか	「シンプル病理学 第7版」		南江堂	2015
参考文献	坂本穆彦	「標準病理学 第5版」		医学書院	2010
	山口和克	「アンダーソン 病理学カラーアトラス」		MEDSI	2001
履修要件等					
研究室	1号館5階 第10研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 13:00~14:30		

科目No.	FBM05-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	形態・機能学特論解剖領域		担当教員	小西 正良		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	選択必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
授業内容の要約	第1年次に学習した解剖学座学および生理学など関連科目の知識を基礎として、人体の構造と機能の関連性に注目してさらに深い理解ができるようにする。特に、中枢神経系に焦点を当てて、苦手領域を克服する。臨床的な関連性や国家試験に対する展望に立ち講義する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中枢神経のマクロ・ミクロ形態、発生学的な神経系のなりたちを理解する。また、伝導路を正確に理解することができる。さらに反射との違いを理解することができる。</li> <li>2. 心臓、動脈・静脈およびリンパ系の構造と機能を理解することができる。</li> <li>3. 呼吸機能に関係する器官についての構造的特徴、呼吸の調節機能、尿の生成と排泄に関する器官の構造とその機能を理解することができる。</li> <li>4. 消化器系のミクロ学的な形態、栄養の代謝経路とその調整について理解することができる。</li> </ol>					
授業形態 授業の進め方	臨床解剖学方式で講義する。各器官が目的とする機能を果たすために最適の構造ができあがっているかを関連付ける。そのために、アクティブラーニング手法による。医学用語を確実に理解(書ける、読める)し、基礎知識をしっかりと固めるように努める。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 大脳基底核(レンズ核、扁桃核、前障、尾状核)と脳室系			前年度の授業内容の復習			
2. 錐体路、錐体外路、運動の制御と反射			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
3. 上行性伝導路と固有感覚路			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
4. 視床核の分類と機能、視床下部の働き、脳脊髄関門と脳下垂体、神経内分泌			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
5. 脳神経の神経構成(運動、感覚、副交感)と脳幹の構造と生命維持機能、脳血管障害、脳室の種類と髄液の循環、髄膜、グリアの種類とその機能			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
6. 循環器系:リンパ系(リンパ節の構造と機能、胸管の走行と循環、リンパの働きと免疫)、脳および心臓への血液供給と関連血管、動脈系、硬膜静脈洞、脳脊髄液			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
7. 腎臓の構造と尿生成メカニズム、尿排泄調節			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート 0%	■定期試験 90%	□その他 %	
	基準等	毎回の授業中に実施する小テスト(記述式)を10%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋め、論述などで出題し、その成績を90%換算する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	野村 巖	「標準理学・作業療法学 解剖学第4版」		医学書院	2015	
参考文献	寺島俊雄	「神経解剖学講義ノート」		金芳堂	2011	
	加藤宏 ほか	「神経科学—脳の探求」		西村書店	2007	
履修要件等	「形態機能学解剖学領域Ⅰ・Ⅱ」を履修済であること					
研究室	1号館5階 第12研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:00~13:00		

科目№	FBM09-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	形態・機能学特論生理領域		担当教員	坪田 裕司		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学 作業療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び 身体の発達		選択必修	1単位	前期(16h)
授業内容の要約	1年次に形態・機能学で学んだ人体の細かな機能と、それらを統合する生体機能の自己調節、恒常性の維持機構、適応について、さらに詳しく学習し、特に運動生理学と生きている仕組みを総合的に理解できるように学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 筋運動と利用エネルギーについて説明できる 2. 運動強度と酸素摂取量、心拍数の関係を説明できる 3. 栄養とエネルギー代謝、呼吸と循環について説明できる 4. 老後の身体活動性を維持する機序と必要性を説明できる					
授業形態 授業の進め方	教科書中心に講義形式で進めるが、随時課題を配布してお互いに説明し合うアクティブラーニング(グループワーク) 時間も取り入れて進める。始めにまとめ資料を配布し、スライド等も取り入れてできるだけ分かりやすく説明する。あらかじめ資料をよく読んで予習し、疑問点を明らかに準備して授業に臨むこと。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 運動と筋 (高齢化社会と運動、筋細胞の種類、骨格筋の構造)			形態機能学整理領域 I・II に配布したまとめ資料の範囲の復習			
2. 運動と筋、身体運動の仕組み (興奮収縮連関、運動制御、筋感覚)			形態機能学整理領域 I・II に配布したまとめ資料の範囲の復習			
3. 呼吸と循環、酸素負債 (筋の利用エネルギー、クレアチンリン酸機構、乳酸性嫌気的エネルギー酸性機構、好気的エネルギー酸性機構、呼吸商、循環の調節、呼吸の調節、無酸素性作業閾値)			形態機能学整理領域 I・II に配布したまとめ資料の範囲の復習			
4. 栄養とエネルギー代謝、動作と利用エネルギー、(基礎代謝、安静時代謝、RMR、METs、エクササイズ Ex、食品カロリー、身体活動)			まとめ資料の範囲の復習に加え講義課題の復習			
5. 最大酸素摂取量 (運動負荷、心拍数、酸素摂取量、最大心拍数、体力、VO2max の測定法、推定法)			まとめ資料の範囲の復習と講義課題の復習			
6. 加齢変化と筋力維持 (廃用症候群、トレーニングの原則・効果、運動刺激)			まとめ資料の範囲の復習と講義課題の復習			
7. 運動負荷 (運動負荷と利用エネルギー、運動の目的、運動処方の設定、リハビリテーションと運動負荷)			まとめ資料の範囲の復習と講義課題の復習			
定期試験 (期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 5 %	■レポート 5 %	■定期試験 85 %	■その他 5 %
	基準等	項目により課題を出す	項目により課題を出す	試験は国試形式および計算問題・文章筆頭問題から出題する	講義への参加度を重視する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	樋口満監修	栄養・スポーツ系の運動生理学		南江堂	2018
参考文献	特に指定しない				
履修要件等	形態機能学整理領域 I・II を履修済みあるいは履修中であること。				
研究室	1号館5階 第11研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16:20~17:50 ※以外メールで調整	

科目No.	FBM03-2E		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	解剖学実習 (S T)		担当教員	小西 正良		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	基礎医学		選択必修	1単位	前期(30h)
授業内容の要約	1年次の形態・機能学での講義の知識を基として人体の構造をさらに詳しく理解を進める。各種標本を使って三次元的な構築を総合的に理解する。本実習では、系統的な学習よりも局所(臨床)的な立場に立って器官の構成・配置を理解する。神経と脈管を中心にネットワーク構築を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 人体を構成する基礎となる骨格についての構造と解剖学用語を理解することができる 2. 呼吸器系の構造を理解し、呼吸運動について説明することができる 3. 内分泌系の特徴と機能を理解することができる 4. 頭頸部に関する神経系の構成について理解することができる					
授業形態 授業の進め方	実習。標本の観察や、粘土を用いて配布した資料に沿って模型を作成する。理解を深めるために、毎回実習内容の口頭試問を行う。関連する解剖関連の図譜を学習すること。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 脳神経と頭蓋を通過する孔				前期実習内容の復習		
2. 上行性伝導路				前回実習内容の復習		
3. 下行性伝導路Ⅰ、錐体路				前回実習内容の復習		
4. 下行性伝導路Ⅱ、錐体外路				前回実習内容の復習		
5. 小脳路(遠心性と求心性)と脳幹網様体				前回実習内容の復習		
6. 大脳の外観と内部構造(水平断)、ブロードマンの脳地				前回実習内容の復習		
7. 間脳(視床と視床下部、脳下垂体、脳脊髄関門BBB)				前回実習内容の復習		
8. 中脳の構造、断面と内部構造と機能				前回実習内容の復習		
9. 橋、延髄の構造、断面と内部構造と機能				前回実習内容の復習		
10. 骨学実習:頭蓋骨の外側面観				前回実習内容の復習		
11. 骨学実習:頭蓋骨の内面				前回実習内容の復習		
12. 骨学実習:脳神経とその役割、頭蓋への出入				前回実習内容の復習		
13. 骨学実習:頭蓋骨の外側面観				前回実習内容の復習		
14. 脳周辺の血管と脳室				前回実習内容の復習		
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 80%	□レポート %	■定期試験 20%	□その他 %	
	基準等	毎回の授業中に実施する口頭試問を80%とする。	特段のレポート課題はしない	定期試験外における総合範囲についての口頭試問を20%とする。	授業中における発言・質疑応答への参加度を加算する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	野村 巖	「標準理学・作業療法学 解剖学第4版」		医学書院	2015	
参考文献	RS.Snell. Lippincott	Clinical Neuroanatomy		Williams and Wilkins	2003	
	履修要件等					
研究室	1号館5階 第12研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:00~13:00		

科目No.	FBM13-2E, FBM09-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	薬理学		担当教員	池内 治平			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体 の発達		選択必修	1単位	後期(16h)	
	作業療法学						
	言語聴覚学	基礎医学					
授業内容の要約	病気の治療の一つとして薬物が使用されている。薬物はいろいろな仕組みによって効果を発現し、身体を正常な状態にひきもどす、その一方、副作用として逆に身体に害になる作用をもたらすこともある。この講義では、薬物の働く仕組みだけでなく、その有効な作用を発揮できるかを学ぶ。						
学修目標 到達目標	1. 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と投与方法(剤形、投与経路)を説明できる。 2. 薬物の主作用と副作用と有害事象の違いについて説明できる。 3. 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。						
授業形態 授業の進め方	教科書及び配付資料による講義形式 筆記試験を行い、授業内容の理解度を評価し、可否の判定を行う。 ただ暗記するのではなく、体の仕組みと薬理作用の関係、疾患との関係をよく理解しましょう。						
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上		
1. 総論(1):薬物治療のめざすもの 使用目的				講義資料および参考書などを用いて復習すると共に、レポート作成を通じて自ら調べることにより授業内容の理解を深めること。			
2. 総論(2):薬理学の基本的な事項(薬物の主な作用点、薬物の投与							
3. 総論(3):薬物の体内動態(薬物の吸収、分布、代謝、排泄)							
4. 総論(4):薬物に影響する因子(生体の相互作用、薬物相互作用							
5. 総論(5):薬物中毒と法令(薬物の適量、医薬品に関する法令)							
6. 抗炎症薬と化学療法薬: 非ステロイド性抗炎症薬、抗菌薬、抗癌薬などの治療薬について							
7. 免疫・アレルギー薬・消毒薬:アレルギー反応、ステロイド、 殺菌、消毒							
定期試験(期末レポート)							
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等					授業の内容全般についての理解度を総合評価します。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年		
	大鹿 英世/吉岡 充 弘/井関 健	「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬 理学」		医学書院	2014		
参考文献	特に指定しない						
履修要件等	特にないが、生物学を履修済であることが望ましい。						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FBM14-2E, FBM10-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	生化学		担当教員	中村 美砂			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体 の発達		選択必修	1 単位	後期 (16h)	
	作業療法学						
	言語聴覚学	基礎医学					
授業内容の要約	生化学とは、生物の身体の仕組みや働きを化学の面から理解しようとする学問である。本講義では、主要な生体成分であるタンパク質、糖質、脂質、核酸などがどのような構造や性質を持ち、これらの物質が生体内でどのように代謝され利用されているのかについて理解を深める。						
学修目標 到達目標	1. 生体を構成する主な物質とその働きを説明できる 2. 各物質の代謝とその制御、臓器との関連を説明できる 3. 代謝異常症の原因を説明できる						
授業形態 授業の進め方	教科書と配布プリントに沿って行う。 他の基礎専門科目などと関連づけて学修する。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. タンパク質の性質・酵素の性質と働き (教科書 pp.19～57)			血清酵素の診断への利用についてまとめる。				
2. 糖質の代謝 (教科書 pp.59～84)			血糖値の調節についてまとめる。				
3. 脂質の代謝・アミノ酸およびタンパク質の代謝 (教科書 pp.85～127)			脂質代謝異常についてまとめる。				
4. 核酸の役割 (教科書 pp.129～145)			遺伝子と疾患との関係についてまとめる。				
5. ホルモン (教科書 pp.147～169)			内分泌疾患についてまとめる。				
6. ビタミン (教科書 pp.172～182)			各種ビタミンの役割と疾患との関係についてまとめる。				
7. 内部環境の恒常性 (教科書 pp.184～195)			恒常性維持のしくみについてまとめる。				
定期試験 (期末レポート)							
8. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)			試験で不正解だった領域をもう一度復習する。				
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100 %	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等					全講義の内容についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年		
	斉藤邦明	「わかりやすい生化学 第5版」		ヌーヴェルヒロカワ	2017		
参考文献	大久保岩男 他	コンパクト生化学 改訂3版		南江堂	2014		
	菌田勝	「栄養科学イラストレイテッド 生化学 第2版」		羊土社	2013		
履修要件等							
研究室	1号館5階 第10研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 13:00～14:30			

科目No.	FCM12-2R, FCM09-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	小児科学		担当教員	吉田 晃		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	1単位	後期(30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
授業内容の要約	小児科臨床医の立場から小児科学を講義する。小児科学は、人を理解するために必須の内容を含む学問であり、それらを理解する基礎としての授業を提供する。					
学修目標 到達目標	1. 小児のこと(身体面、精神面ともに)を理解することができる 2. 小児を学ぶことで成人、老人への理解を深めることができる 3. 発達障害など成人へ移行する諸問題を理解することができる					
授業形態 授業の進め方	古典的な講義形式。学修上、励行してもらいたいことは、新聞(一般紙)やニュースを見て関連事項に意識を持って、考えてもらうこと。これはスマホでもできる。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション、小児科学概論			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
2. 小児の発達			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
3. 新生児・未熟児			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
4. 遺伝、先天異常			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
5. 免疫・アレルギー疾患、膠原病			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
6. 感染症、感染予防、呼吸器疾患			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
7. 消化器疾患1			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
8. 消化器疾患2			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
9. 循環器			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
10. 血液疾患・腫瘍			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
11. 内分泌・代謝疾患			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
12. 神経・筋・骨系疾患			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
13. 心身医学、虐待、重症心身障害児			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
14. まとめ			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 90 %	■その他 10 %	
	基準等			ペーパーテスト	授業への参加度も加味。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	富田 豊	小児科学		医学書院	2014年	
参考文献	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	内科学 I		担当教員	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	1単位	前期(30h)
	作業療法学					
授業内容の要約	理学療法学・作業療法学・言語聴覚学が本学の教育の基本であり、この趣旨に沿い内科学の教育を行う。講義を通して理学療法学・作業療法学における内科学の必要性について知り、内科学の知識が今後の理学療法学・作業療法学の発展に寄与することを期待する。					
学修目標 到達目標	1. 内科学の基本的な概念を修得できる 2. 理学療法学・作業療法学における内科学の必要性を知ることができる 3. 内科学の知識を臨床現場で応用することができる					
授業形態 授業の進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学、病理学の知識が必要である。これらの科目の復習しておくことが望ましい。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 内科学総論・症候学①(教科書 p2~54)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
2. 症候学②(教科書 p38~54)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
3. 循環器疾患①(教科書 p55~100)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
4. 循環器疾患②(教科書 p55~100)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
5. 循環器疾患③(教科書 p55~100)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
6. 循環器疾患④(教科書 p55~100)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
7. 呼吸器疾患①(教科書 p102~141)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
8. 呼吸器疾患②(教科書 p102~141)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
9. 呼吸器疾患③(教科書 p102~141)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
10. 消化器疾患①(教科書 p142~173)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
11. 消化器疾患②(教科書 p142~173)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
12. 消化器疾患③(教科書 p142~173)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
13. 肝・胆・膵疾患①(教科書 p174~200)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
14. 肝・胆・膵疾患②(教科書 p174~00)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	<input type="checkbox"/> レポート	■定期試験 80%		■その他 20%
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。		授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	奈良勲ほか	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版		医学書院	2014	
参考文献	特に指定しない					
履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい					
研究室	1号館5階 第15研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 10:40~12:10		

科目No.	FCM02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	内科学（含老年医学）（S T）		担当教員	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必修	1単位	前期（30h）
授業内容の要約	理学療法学・作業療法学・言語聴覚学が本学の教育の基本であり、この趣旨に沿い内科学の教育を行う。講義を通して言語聴覚学における内科学の必要性について知り、内科学の知識が今後の言語聴覚学の発展に寄与することを期待する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内科学の基本的な概念を修得できる</li> <li>2. 言語聴覚学における内科学の必要性を知ることができる</li> <li>3. 内科学の知識を臨床現場で応用することができる</li> </ol>					
授業形態 授業の進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学、病理学の知識が必要である。これらの科目の復習しておくことが望ましい。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 内科学総論・症候学（教科書 p1~24）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
2. 循環器疾患①（教科書 p89~166）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
3. 循環器疾患②（教科書 p89~166）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
4. 呼吸器疾患①（教科書 p25~88）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
5. 呼吸器疾患②（教科書 p25~88）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
6. 消化器疾患①（教科書 p167~222）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
7. 消化器疾患②（教科書 p167~222）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
8. 肝・胆・膵疾患（教科書 p223~276）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
9. 血液・造血器疾患（教科書 p471~506）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
10. 代謝疾患（教科書 p277~310）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
11. 内分泌疾患（教科書 p311~346）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
12. 腎・泌尿器疾患（教科書 p347~406）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
13. 膠原病・アレルギー疾患・免疫不全（教科書 p507~548）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
14. 感染症（教科書 p549~580）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %		<input type="checkbox"/> レポート %		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 80 %
	基準等					<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験にて授業内容を整理し、ノートにまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> その他 20 % 授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	浅野嘉延	なるほどなっとく内科学		南山堂	2016	
参考文献	特に指定しない					
履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい					
研究室	1号館5階 第15研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 10:40~12:10		

科目No.	FCM04-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	内科学Ⅱ		担当教員	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	1単位	後期(30h)
	作業療法学					
授業内容の要約	理学療法学・作業療法学・言語聴覚学が本学の教育の基本であり、この趣旨に沿い内科学の教育を行う。講義を通して理学療法学・作業療法学における内科学の必要性について知り、内科学の知識が今後の理学療法学・作業療法学の発展に寄与することを期待する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内科学の基本的な概念を修得できる</li> <li>2. 理学療法学・作業療法学における内科学の必要性を知ることができる</li> <li>3. 内科学の知識を臨床現場で応用することができる</li> </ol>					
授業形態 授業の進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学、病理学の知識が必要である。これらの科目の復習しておくことが望ましい。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 血液・造血器疾患①(教科書 p201~227)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
2. 血液・造血器疾患②(教科書 p201~227)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
3. 血液・造血器疾患③(教科書 p201~227)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
4. 代謝疾患①(教科書 p228~250)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
5. 代謝疾患②(教科書 p228~250)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
6. 内分泌疾患①(教科書 p251~269)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
7. 内分泌疾患②(教科書 p251~269)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
8. 腎・泌尿器疾患①(教科書 p270~296)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
9. 腎・泌尿器疾患②(教科書 p270~296)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
10. 膠原病・アレルギー疾患・免疫不全①(教科書 p297~320)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
11. 膠原病・アレルギー疾患・免疫不全②(教科書 p297~320)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
12. 感染症①(教科書 p321~339)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
13. 感染症②(教科書 p321~339)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
14. 感染症③(教科書 p321~339)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト%	□レポート %	■定期試験 80 %	■その他 20 %	
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	奈良勲ほか	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 第3版		医学書院	2014	
参考文献	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1号館5階 第15研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 10:40~12:10		

科目No.	FCM07-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	精神医学 I		担当教員	鐘本 英輝		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必修	1単位	前期 (30h)	
	作業療法学					
授業内容の要約	リハビリテーションの現場も含め、医療現場では精神医学的な問題を抱える患者に対応することは避けられない。精神疾患の概要を学び、臨床現場で精神医学的な問題に適切に対応するための基礎能力を養成する。					
学修目標 到達目標	1. 各精神疾患の概要を説明することができる 2. 一人の医療者として患者に配慮した態度で治療に臨むことができる					
授業形態 授業の進め方	パワーポイントスライドを用いた講義を行う。毎回講義スライドをプリントとしても配布するが、理解を促すための補助的なものであるため、講義を通して適宜加筆・修正を心がけてほしい。基本的には代表的な疾患を各論的に学習することを主とする。適宜国家試験対策にも触れる。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 精神医学総論 1			基本的に指定教科書の内容に沿って講義を行うので、事前に該当箇所を読み、学習しておくこと。			
2. 精神医学総論 2						
3. 器質性精神障害						
4. 症状性精神障害・物質関連精神障害						
5. 統合失調症						
6. 気分障害						
7. 神経症性障害						
8. パーソナリティ障害						
9. 摂食・睡眠などの生理的障害						
10. 知的障害・発達障害						
11. リエゾン精神医学						
12. リハビリテーションと精神医学						
13. 精神医学に関連する司法・福祉						
14. ライフサイクルと精神医学						
定期試験						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	不定期に講義内容に関連する小テストを行う。		小テストと合わせ、6割以上の得点で合格とする。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	上野武治	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版		医学書院	2015	
参考文献	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後やメールでの質問を受け付ける。		

科目No.	FCM08-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	精神医学 (S T)		担当教員	鐘本 英輝		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必修	1単位	前期 (30h)
授業内容の要約	リハビリテーションの現場も含め、医療現場では精神医学的な問題を抱える患者に対応することは避けられない。精神疾患の概要を学び、臨床現場で精神医学的な問題に適切に対応するための基礎能力を養成する。					
学修目標 到達目標	1. 各精神疾患の概要を説明することができる 2. 一人の医療者として患者に配慮した態度で治療に臨むことができる					
授業形態 授業の進め方	パワーポイントスライドを用いた講義を行う。毎回講義スライドをプリントとしても配布するが、理解を促すための補助的なものであるため、講義を通して適宜加筆・修正を心がけてほしい。基本的には代表的な疾患を各論的に学習することを主とする。適宜国家試験対策にも触れる。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 精神医学総論 1			基本的に指定教科書の内容に沿って講義を行うので、事前に該当箇所を読み、学習しておくこと。			
2. 精神医学総論 2						
3. 器質性精神障害						
4. 症状性精神障害・物質関連精神障害						
5. 統合失調症						
6. 気分障害						
7. 神経症性障害						
8. パーソナリティ障害						
9. 摂食・睡眠などの生理的障害						
10. 知的障害・発達障害						
11. リエゾン精神医学						
12. リハビリテーションと精神医学						
13. 精神医学に関連する司法・福祉						
14. ライフサイクルと精神医学						
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	不定期に講義内容に関連する小テストを行う。		小テストと合わせ、6割以上の得点で合格とする。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	上野武治	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版		医学書院	2015	
参考文献	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後やメールでの質問を受け付ける。		

科目No.	FCM08-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	精神医学Ⅱ		担当教員	鐘本 英輝		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	1単位	後期(30h)
	作業療法学					
授業内容の要約	精神医学Ⅰでの基本的な知識をベースに、精神医学における脳科学的な視点やリハビリテーションとの関係、現代社会特有の問題などを総論的に学び、実臨床に還元できる体系的な知識を養成する。					
学修目標 到達目標	1. 脳活動と精神活動との関係を理解することができる 2. 臨床現場で精神医学的なアセスメントを行う基礎を身につける 3. 国家試験問題を解くことができる					
授業形態 授業の進め方	パワーポイントスライドを用いた講義を行う。毎回講義スライドをプリントとしても配布するが、理解を促すための補助的なものであるため、講義を通して適宜加筆・修正を心がけてほしい。主に疾患横断的な総論を講義する。適宜国家試験過去問についても触れる。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 神経心理学・行動神経学 1				総論的な内容が多いため、適宜精神医学Ⅰの内容を復習してほしい。		
2. 神経心理学・行動神経学 2						
3. ストレス脆弱性モデル						
4. 心と体のインタラクション						
5. 高齢社会における精神医学的問題 1						
6. 高齢社会における精神医学的問題 2						
7. 薬物療法と精神療法						
8. リハビリテーションと精神医学						
9. 患者の周囲に目を向ける						
10. 精神医学と研究						
11. まとめと国家試験対策 1						
12. まとめと国家試験対策 2						
13. まとめと国家試験対策 3						
14. まとめと国家試験対策 4						
定期試験						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	不定期に講義内容に関連する小テストを行う。		小テストと合わせ、6割以上の得点で合格とする。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	上野武治	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版		医学書院	2015	
参考文献	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後やメールでの質問を受け付ける。		

科目No.	FCM05-2R, FCM04-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	神経内科学		担当教員	出田 淳		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	1単位	前期(30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
授業内容の要約	基礎で学習済みである神経解剖、神経生理、神経薬理、分子遺伝学の理解の上に、神経症候学、神経部位診断、数々の神経筋疾患について学び、神経疾患への理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 基礎で学んだ神経解剖、神経生理、神経薬理、分子遺伝学を説明できる 2. 神経症候学、診断学を理解し、患者さんの神経所見の評価ができる 3. 各神経疾患につき病因、症候、診断、治療についての系統的に説明できる					
授業形態 授業の進め方	教科書中心の内容をパワーポイント使用にて授業を行う。 第1回より最終講義まで互いに関連した内容であるため、可能な限りの聴講が必須である。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 総論) 神経疾患とリハビリ・神経解剖学の基礎(教科書 pp1-16)			神経疾患とリハビリをノートにまとめる			
2. 総論) 神経解剖学の基礎・神経薬理学の基礎(教科書 pp8-29)			神経解剖学・薬理学の基礎をノートにまとめる			
3. 総論) 分子遺伝学・神経系の発達と加齢(教科書 pp30-58)			左記の内容をノートにまとめる			
4. 神経診断学) 神経診断学とは・意識障害・高次脳機能障害(教科書 pp61-79)			意識障害・高次脳機能障害をノートにまとめる			
5. 神経診断学) 脳神経(教科書 pp79-90)			1番から12番の脳神経をノートにまとめる			
6. 神経診断学) 運動系・感覚系(教科書 pp91-110)			運動・感覚系をノートにまとめる			
7. 神経診断学) 自律神経・反射・検査法(教科書 pp111-143)			自律神経・反射・検査法をノートにまとめる			
8. 中間試験(教科書 pp1-143)			試験範囲の再確認			
9. 神経診断学) 変性疾患(パーキンソン病)(教科書 pp170-188)			錐体外路疾患をノートにまとめる			
10. 神経診断学) 変性疾患(脊髄小脳変性症と運動ニューロン病)(教科書 pp189-210)			脊髄小脳変性症と運動ニューロン病をノートにまとめる			
11. 神経診断学) 脱髄疾患・末梢神経障害(教科書 pp210-233)			脱髄疾患と末梢神経障害をノートにまとめる			
12. 神経診断学) 筋疾患・神経筋接合部疾患(重症筋無力症)(教科書 pp234-252)			筋疾患・神経筋接合部疾患(重症筋無力症)をノートにまとめる			
13. 神経診断学) 脊髄疾患・神経系感染症・先天異常・脳性麻痺(教科書 pp261-311)			脊髄疾患・神経系感染症・先天異常・脳性麻痺をノートにまとめる			
14. 神経診断学) 外傷・自律神経疾患・機能的疾患・認知症(教科書 pp312-351)			外傷・自律神経疾患・機能的疾患・認知症をノートにまとめる			
定期試験(教科書 pp1-143 170-252 261-351)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)			神経内科学を振り返り、今後の学習計画を立案			
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他 %	
	基準等			定期試験(中間試験・期末試験)		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	江藤文夫他	「神経内科学テキスト」改訂第4版		南江堂	2017年	
参考文献	なし					
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM06-2R, FCM05-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	臨床神経学		担当教員	新谷 亜紀		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必修	1単位	後期(30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					臨床医学および歯科学
授業内容の要約	神経解剖・機能を再理解、再認識し、臨床に応用すべく、諸疾患（その発生要因と症状並びに診断）、諸検査（頭部CT、MRI等）、諸治療について学修する。神経内科学で学んだ知識を再確認するとともに脳神経外科学的アプローチでも認知する。					
学修目標 到達目標	1. 脳・脊髄・末梢神経の解剖、生理が確実に理解できる→2.に繋げる。 2. 神経疾患の症状と診断、治療が理解できる→臨床実習等において知識を体得する。 3. セラピストという職に夢と誇りを持つべく、自主的に学習できる					
授業形態 授業の進め方	パワーポイント中心に説明する。資料は配布するが、自ら考える授業にする。授業内容については自宅でのその日のうちに復習し、理解できなかった部分を整理する					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 神経系の解剖・生理の再理解 1			解剖学・生理学を予復習			
2. 神経系の解剖・生理の再理解 2			同上			
3. 神経系の解剖・生理の再理解 3			同上			
4. 脳血管障害（くも膜下出血）			神経内科学で学んだ症状・診断の予復習			
5. 脳血管障害（脳出血）			くも膜下出血との違いを調べる			
6. 脳血管障害（脳梗塞 1）			アテローム血栓性脳梗塞・ラクナ梗塞予復習			
7. 脳血管障害（脳梗塞 2）			心原性脳塞栓予復習			
8. 頭部外傷			硬膜外と硬膜下の解剖学的位置関係を復習			
9. 脳腫瘍 1			良性腫瘍と悪性腫瘍の種類を調べる			
10. 脳腫瘍 2			9.で学んだことをしっかり復習する			
11. 神経変性疾患 1			神経内科学で学修したことを復習			
12. 神経変性疾患 2			同上			
13. 神経変性疾患 3			同上			
14. 末梢神経疾患			同上			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100 %	<input type="checkbox"/> その他 %	
	基準等			授業の内容全般についての理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特になし	同左		同左		
参考文献	特になし	同左		同左		
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	整形外科学Ⅱ		担当教員	梅本 美咲・塩崎 嘉樹		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必修	1単位	前期(30h)	
	作業療法学					
授業内容の要約	本講義では、将来臨床の場においてよく関わる疾患を中心に、その病態、診断、治療法について教示する。専門的な理学、作業療法学を学ぶ上での基礎となるので、十分に理解を深めること。臨床で頻度の高い運動器における主要疾患や外傷の発症機序、症状、検査、治療、その臨床成績などについて解説する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 膝関節、足関節、足部の構造や疾患、外傷について説明できる</li> <li>2. 外傷学については、主な骨折の特徴、治療法について説明できる</li> <li>3. スポーツ傷害の発生機序、治療法を説明できる</li> <li>4. 脊椎疾患、脊椎・脊髄損傷、末梢神経損傷を理解する</li> <li>5. 上肢疾患、股関節疾患を理解する</li> </ol>					
授業形態 授業の進め方	パワーポイントを中心に参考資料としてプリントを配布					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 膝・足関節と足部 半月板、靭帯損傷、関節症、足部疾患などの病態と治療			教科書を使用し、左記範囲の予習・復習を行うこと。			
2. 外傷学総論骨折、脱臼、捻挫などの病態と治療法			教科書を使用し、左記範囲の予習・復習を行うこと。			
3. 外傷学各論 1. 上肢の外傷			教科書を使用し、左記範囲の予習・復習を行うこと。			
4. 外傷学各論 2. 下肢の外傷			教科書を使用し、左記範囲の予習・復習を行うこと。			
5. 外傷学各論 3. スポーツ外傷、スポーツ障害			教科書を使用し、左記範囲の予習・復習を行うこと。			
6. 脊椎 1. (頸椎)			教科書を使用し、左記範囲の予習・復習を行うこと。			
7. 脊椎 2. (胸腰椎)			教科書を使用し、左記範囲の予習・復習を行うこと。			
8. 上肢 1			教科書を使用し、左記範囲の予習・復習を行うこと。			
9. 上肢 2			教科書を使用し、左記範囲の予習・復習を行うこと。			
10. 股関節			教科書を使用し、左記範囲の予習・復習を行うこと。			
11. 脊椎・脊髄損傷 1.			教科書を使用し、左記範囲の予習・復習を行うこと。			
12. 脊椎・脊髄損傷 2.			教科書を使用し、左記範囲の予習・復習を行うこと。			
13. 末梢神経損傷 1.			教科書を使用し、左記範囲の予習・復習を行うこと。			
14. 末梢神経損傷 2.			教科書を使用し、左記範囲の予習・復習を行うこと。			
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		□レポート %		■定期試験 70% ■その他 30%
	基準等					授業の内容全般についての理解度を評価する 授業への参加度、および授業態度を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	中村利孝ほか	「標準整形外科学 第13版」		医学書院		2017
参考文献	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM11-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	臨床心理学		担当教員	水間病院 臨床心理士		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	1単位	後期(30h)
	作業療法学					
授業内容の要約	臨床心理学的視点の獲得によって、多角的な考え方で対象者を支援できるように努める。また、医療従事者として働くために必要な心理学の基礎を学び、その知識を生かせるようにする。					
学修目標 到達目標	1. 心理学の基礎を理解し、応用的に活用できる 2. 心理療法の理論に関して理解ができる 3. 臨床心理学的な視点を獲得し、多角的な支援ができる					
授業形態 授業の進め方	講義形式。適宜、心理検査実習を行う。 講義はパワーポイントで行い、毎回レジュメを配布する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. ガイダンス、心理学の歴史				心理学に関する今までの学習を復習		
2. パーソナリティ理論				授業後にレジュメで復習		
3. 防衛機制				繰り返し復習し、習得できるように		
4. 発達心理学				授業後にレジュメで復習		
5. 適応・不適応、欲求、葛藤				〃		
6. 心理検査				〃		
7. 心理検査実習①				6回目の授業の復習		
8. 精神分析				授業後にレジュメで復習		
9. 認知行動療法				〃		
10. 来談者中心療法				〃		
11. その他の心理療法				〃		
12. 子どもの心理療法				〃		
13. 成人以降の疾患				〃		
14. 心理検査実習②				6回目の授業の復習		
定期試験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				テストで出題された内容を確認しておく		
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 5%	■レポート 5%	■定期試験 60～75%	■その他 15～30%	
	基準等	授業内に不定期で小テストを実施し、授業内容の理解を深める。	心理検査実習の際の所見を作成する。	定期試験を実施する。授業全体を通して知識の習得度を評価する。	出席点を加点する。ただし、出席を不正した場合は減点する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	特に指定しない					
参考文献	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FPS03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	臨床心理学 I (S T)		担当教員	水間病院 臨床心理士		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	心理学		必修	1単位	後期(30h)
授業内容の要約	臨床心理学的視点の獲得によって、多角的な考え方で対象者を支援できるように努める。また、医療従事者として働くために必要な心理学の基礎を学び、その知識を生かせるようにする。					
学修目標 到達目標	1. 心理学の基礎を理解し、応用的に活用できる 2. 心理療法の理論に関して理解ができる 3. 臨床心理学的な視点を獲得し、多角的な支援ができる					
授業形態 授業の進め方	講義形式。内2回、心理検査実習を行う。 講義はパワーポイントで行い、毎回レジュメを配布する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. ガイダンス、心理学の歴史			心理学に関する今までの学習を復習			
2. パーソナリティ理論			授業後にレジュメで復習			
3. 防衛機制			繰り返し復習し、習得できるように			
4. 発達心理学			授業後にレジュメで復習			
5. 適応・不適応、欲求、葛藤			〃			
6. 心理検査			〃			
7. 心理検査実習①			6回目の授業の復習			
8. 精神分析			授業後にレジュメで復習			
9. 認知行動療法			〃			
10. 来談者中心療法			〃			
11. その他の心理療法			〃			
12. 子どもの心理療法			〃			
13. 成人以降の疾患			〃			
14. 心理検査実習②			6回目の授業の復習			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)			テストで出題された内容を確認しておく			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 5%	■レポート 5%	■定期試験 60~75%	■その他 15~30%	
	基準等	授業内に不定期で小テストを実施し、授業内容の理解を深める。	心理検査実習の際の所見を作成する。	定期試験を実施する。授業全体を通して知識の習得度を評価する。	出席点を加点する。出席を不正した場合は減点する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	特に指定しない					
参考文献	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM10-2E, FCM03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	リハビリテーション医学		担当教員	吉田 直樹			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	選択必修	1 単位	後期 (30h)		
	作業療法学						
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学	必修				
授業内容の要約	<p>ハビリテーション医療が必要とされるさまざまな疾患を中心に、病態、症状、診断、治療について概説する。その理解の上に立って、障害の評価、リハビリテーションプログラムについて学ぶ。</p>						
学修目標 到達目標	<p>1. 疾患の病態、症状、診断法が理解できる  2. 障害の評価ができる  3. 障害に対するリハビリテーションプログラムが立てられる</p>						
授業形態 授業の進め方	<p>基本は Power Point と配布資料で行う。(テレビ講義も含む)</p>						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. リハビリテーション概論 (リハビリテーションの理念、健康と障害の概念)			学修した範囲について復習を必ずすること				
2. リハビリテーション概論 (リハビリの流れ、チーム医療・編成)			学修した範囲について復習を必ずすること				
3. リハビリテーションのための基礎知識 (解剖学、生理学など)			学修した範囲について復習を必ずすること				
4. 障害の評価 (筋力、ROM、呼吸循環、排泄など)			学修した範囲について復習を必ずすること				
5. 障害の評価 (歩行障害・装具学、ADL など)			学修した範囲について復習を必ずすること				
6. 障害の評価 (高次脳機能障害)			学修した範囲について復習を必ずすること				
7. 障害の評価 (摂食嚥下障害)			学修した範囲について復習を必ずすること				
8. 領域別；脳卒中 (脳血管疾患)			学修した範囲について復習を必ずすること				
9. 領域別；運動器疾患			学修した範囲について復習を必ずすること				
10. 領域別；脊髄損傷			学修した範囲について復習を必ずすること				
11. 領域別；神経筋疾患			学修した範囲について復習を必ずすること				
12. 領域別；内部疾患 (循環器・呼吸器疾患・がんなど)			学修した範囲について復習を必ずすること				
13. 領域別；小児・切断・スポーツ医学 (障害運動教育) など			学修した範囲について復習を必ずすること				
14. リハビリテーション医療のこれまでとこれから			学修した範囲について復習を必ずすること				
定期試験 (期末レポート)							
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)			学修した範囲について復習を必ずすること				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					全講義の内容についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年	
	特に指定しない						
参考文献	特に指定しない						
履修要件等							
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。			

科目No.	SRP07-2E, SRO01-2E, SRM01-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	栄養学		担当教員	岡井 明美			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション	選択必修	1単位	前期(16h)		
	作業療法学						
	言語聴覚学						
授業内容の要約	日本における生活習慣病の誘因となっている背景と栄養状態に関係する問題を理解する。栄養管理をチーム医療のもと効率よく行うため、メディカルスタッフとして栄養と身体の関わり、疾病との関連を理解しそれぞれの業務に活かしていく。						
学修目標 到達目標	1. 栄養素の種類と役割が理解できる 2. 栄養状態の評価と病態別の栄養管理のポイントが理解できる。 3. 健康づくりと食生活について、国の施策が理解できる。						
授業形態 授業の進め方	教科書に沿った対面式講義が基本。必要に応じて配布資料による演習を取り入れた参加型の授業を行う。栄養学の授業で学習する内容を日常生活に関連付ける視点を養う。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 栄養学を学ぶための基礎知識、生体に必要な栄養素			課題1を作成し持参する				
2. 栄養素の種類と働き							
3. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝							
4. エネルギー代謝・食事と食品							
5. 栄養ケア・マネジメント、栄養状態の評価・判定							
6. ライフステージと栄養							
7. 臨床栄養							
定期試験(期末レポート)							
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 90%	■その他 10%
	基準等					課題及び授業内容についての定期試験を実施し、理解度を評価する	履修態度
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年		
	小野 章史他	栄養学 人体の構造と機能③		医学書院	2018		
参考文献	石黒伊三雄・篠原力雄 監修	わかりやすい生化学 疾病と代謝・栄養の理解のために 第5版		ヌーヴェルヒロカワ	平成29年		
履修要件等							
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。			

科目No.	SBP04-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次		
授業科目名	機能運動学		担当教員	村西 壽祥				
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間		
	理学療法学	基礎理学療法学		必修	1単位	前期(30h)		
授業内容の要約	解剖学および基礎運動学の知識を基に、関節の運動および機能、病態について学習する。							
学修目標 到達目標	1. 下肢関節を構成する構造および機能的な役割を説明できる 2. 主要な関節の関節運動が説明できる 3. 各関節に生じる病態とその影響について説明できる							
授業形態 授業の進め方	講義は教科書および板書を中心に進める。 解剖学、基礎運動学の理解が重要である。							
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上			
1. 総論、股関節の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：股関節の解剖学的特徴					
2. 股関節の構造と機能② 関節包・靭帯の機能			復習：股関節を構成する組織の役割					
3. 股関節の構造と機能③ 筋機能			復習：股関節周囲筋の機能					
4. 股関節の構造と機能④ 運動学			復習：股関節の代表的バイオメカニクス					
5. 股関節の構造と機能⑤ 病態			復習：股関節の病態運動学					
6. 膝関節の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：膝関節の解剖が解剖学的特徴					
7. 膝関節の構造と機能② 関節包・半月・靭帯の機能			復習：膝関節を構成する組織の役割					
8. 膝関節の構造と機能③ 筋機能			復習：膝関節周囲筋の機能					
9. 膝関節の構造と機能④ 運動学			復習：膝関節の代表的バイオメカニクス					
10. 膝関節の構造と機能⑤ 病態			復習：膝関節の病態運動学					
11. 足関節の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：足関節の解剖学的特徴					
12. 足関節の構造と機能② 靭帯の機能			復習：足関節を構成する組織の役割					
13. 足関節の構造と機能③ 筋機能			復習：足関節周囲筋の機能とバイオメカニクス					
14. 足関節の構造と機能④ 歩行、病態			復習：足関節の病態運動学					
定期試験(期末レポート)								
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)								
成績評価方法	項目	■課題・小テスト30%	□レポート	%	■定期試験	70%	□その他	%
	基準等	毎回、授業内で行う小テストの平均点を定期試験テストに加算する		記述試験のみ(記号問題、選択問題は実施しない)、 解答は説明することを求める				
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年			
	Donald A Neuman	「筋骨格系のキネジオロジー原著第3版」		医歯薬出版	2018			
参考文献	特に指定しない							
履修要件等	形態・機能学解剖学領域Ⅰ・Ⅱ, 解剖学実習Ⅰ・Ⅱ, 基礎運動学, 基礎運動学実習							
研究室	1号館5階 第21研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00				

科目No.	SBP05-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	機能運動学実習		担当教員	中尾 英俊・今岡 真和		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必修	1単位	前期(30h)
授業内容の要約	骨や骨格筋などの触察は関節運動の誘導や運動療法を実施するために必要な技術である。解剖学の講義で学習した骨や骨格筋について実際に人体に触れることで理解を深める。また、骨格筋がどのように関節運動を誘導するか理解する。					
学修目標 到達目標	1. 代表的な骨指標の触察ができる 2. 代表的な骨格筋の触察ができる 3. 筋の起始・停止、神経支配を説明できる 4. 骨格筋の機能について説明できる					
授業形態 授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を使用し、実技中心に授業を進める。</li> <li>触察を行なうので、Tシャツ、短パンなど上下肢を露出しやすい服装で授業に参加すること。</li> <li>本講義に先立って、解剖学の基礎知識を習得しておくこと。</li> </ul>					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 触察の基本、骨指標の触診(胸郭・骨盤)				P4~19, 418~422 予習と復習		
2. 骨指標の確認(大腿骨)				P424 予習と復習		
3. 骨指標の確認(膝関節周辺)				P435 予習と復習		
4. 骨指標の確認(足関節および足部周辺)				P439 予習と復習		
5. 骨指標の確認(肩甲帯、上腕骨)				P425 予習と復習		
6. 骨指標の確認(橈骨、尺骨)				P430 予習と復習		
7. 筋の触察と機能の理解(股関節に関わる筋)				P276~311 予習と復習		
8. 筋の触察と機能の理解(膝関節に関わる筋)				P316~339 予習と復習		
9. 筋の触察と機能の理解(足関節に関わる筋)				P349~360 予習と復習		
10. 筋の触察と機能の理解(肩甲上腕関節に関わる筋)				P156~177 予習と復習		
11. 筋の触察と機能の理解(肩甲胸郭関節に関わる筋)				P22~45,116~133 予習と復習		
12. 筋の触察と機能の理解(肘関節に関わる筋)				P178~204 予習と復習		
13. 筋の触察と機能の理解(手関節および手指に関わる筋)				P205~260 予習と復習		
14. 筋の触察と機能の理解(胸郭・脊柱に関わる筋)				P58~99 予習と復習		
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		□レポート %		■定期試験 70% ■その他 30%
	基準等					講義の内容について理解度を問う 実技試験を行う
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	河上敬介	改訂第2版 骨格筋の形と触察法		大峰閣		2013
参考文献	林典雄、他	改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢)		メジカルビュー社		2011
	林典雄、他	改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術(下肢・体幹)		メジカルビュー社		2012
履修要件等						
研究室	1号館5階 共同研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~13:00		

科目No.	SBP06-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次		
授業科目名	臨床運動学 I		担当教員	村西 壽祥				
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間		
	理学療法学	基礎理学療法学		必修	1単位	後期(30h)		
授業内容の要約	機能運動学に引き続き、身体各部位の運動および機能、病態について学習する。 正常歩行の運動学・運動力学について学習する。 運動学的・運動力学的知識をもとに、姿勢および動作の観察・分析方法について学習する。							
学修目標 到達目標	1. 上肢関節と体幹の構造と機能的な役割を説明できる 2. 主要な関節の関節運動が説明できる 3. 各関節に生じる病態とその影響について説明できる							
授業形態 授業の進め方	講義は教科書および板書を中心に進める。 解剖学、基礎運動学の理解が重要である。							
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上			
1. 肩関節・肩甲帯の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：肩関節の解剖学的特徴					
2. 肩関節・肩甲帯の構造と機能② 関節包・靭帯の機能			復習：肩関節を構成する組織の役割					
3. 肩関節・肩甲帯の構造と機能③ 筋機能と運動学			復習：肩関節周囲筋の機能とバイオメカニクス					
4. 肩関節・肩甲帯の構造と機能④ 病態			復習：肩関節の病態運動学					
5. 肘・前腕の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：肘・前腕の解剖学的特徴					
6. 肘・前腕の構造と機能② 靭帯の機能			復習：肘・前腕を構成する組織の役割					
7. 肘・前腕の構造と機能③ 筋機能と運動学			復習：肘・前腕周囲筋の機能とバイオメカニクス					
8. 肘・前腕の構造と機能④ 病態			復習：肘・前腕の病態運動学					
9. 手関節の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：手関節の解剖学的特徴					
10. 手関節の構造と機能② 筋機能			復習：手関節を構成する組織の役割					
11. 手関節の構造と機能③ 運動学と病態			復習：手関節周囲筋の機能とバイオメカニクス					
12. 体幹の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：脊柱の解剖学的特徴と組織の役割					
13. 体幹の構造と機能② 筋機能			復習：体幹筋の機能とバイオメカニクス					
14. 体幹の構造と機能③ 運動学と病態			復習：体幹の病態運動学					
定期試験(期末レポート)								
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)								
成績評価方法	項目	■課題・小テスト30%	□レポート	%	■定期試験	70%	□その他	%
	基準等	毎回、授業内で行う小テストの平均点を定期試験テストに加算する		記述試験のみ(記号問題、選択問題は実施しない)、 解答は説明することを求める				
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年			
	Donald A Neuman	「筋骨格系のキネジオロジー原著 第2版」		医歯薬出版	2015			
参考文献	月城慶一ほか	観察による歩行分析		医学書院	2005			
履修要件等	形態・機能学解剖学領域 I・II, 解剖学実習 I・II, 基礎運動学, 基礎運動学実習							
研究室	1号館5階 第21研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00				

科目No.	SPE02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	理学療法評価学 I		担当教員	畑中 良太		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必修	1単位	前期(30h)
授業内容の要約	理学療法評価は、対象者の問題点の抽出および治療プログラム作成変更のために無くてはならない過程である。一連の理学療法評価系の授業を受講することによって、理学療法評価を円滑に実施できるようにする。本講座は評価の総論および神経学的検査測定技術について学習する。					
学修目標 到達目標	1. 理学療法評価の基本的概念を理解することができる 2. 神経学的検査の測定方法を理解することができる 3. 基本的な神経学的検査の測定ができる					
授業形態 授業の進め方	概要を講義形式にて行い、実技練習や検査結果の解釈等グループワークを行う。 また、確認テスト等を行い、理解度の確認を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 評価総論						
2. 意識障害の検査			復習：意識の分類・JCSについて			
3. 認知症スクリーニング検査			復習：HDS-R、MMSEについて			
4. 感覚検査（総論、表在検査）			復習：感覚伝導路、感覚障害のパターン			
5. 感覚検査（深部検査、視覚、嗅覚）			復習：感覚検査の方法			
6. 反射検査（腱反射）			復習：反射弓の理解			
7. 反射検査（表在反射、病的反射）			復習：反射検査の方法			
8. 片麻痺機能検査（ブルンストローム・ステージ）			復習：BRSTの方法			
9. 協調性検査			復習：協調運動障害の種類			
10. 筋緊張検査			復習：筋緊張とは何か			
11. 姿勢バランス検査			復習：バランス検査の方法			
12. 注意・遂行機能障害の検査			復習：注意障害と遂行機能障害について			
13. 高次脳機能検査			復習：失行、失認について			
14. ロールプレイ						
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート	%	■定期試験 40%	■その他 40%
	基準等	授業内に小テストを実施し、内容についての理解を評価する。			筆記試験を行う。授業内容全般の理解度を評価する。	実技試験を行う。各検査における実施手順等の確認を行い、評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	潮見泰蔵ほか	「リハビリテーション基礎評価学」		羊土社	2016	
	鈴木則宏	「神経診察クローズアップ改訂第2版」		メジカルビュー	2017	
参考文献	市橋則明ほか	「理学療法評価学」		文光堂	2016	
	伊藤俊一ほか	「片麻痺機能検査 協調性検査」		三輪書店	2014	
履修要件等	解剖学および生理学関係の教科が履修済みであることが望ましい。					
研究室	3号館2階 第29研究室		オフィスアワー	毎週金曜日 12:00~13:00		

科目No.	SPE04-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	理学療法評価学Ⅱ		担当教員	久利 彩子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必修	1単位	後期(30h)
授業内容の要約	患者の「動作観察」「動作分析」は、適切な理学療法実施に重要である。当該科目では、基本動作の動作観察とメカニズム、正常から逸脱した動作における動作観察と動作分析、機能障害(impairment)の推論を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 基本動作の動作観察とメカニズムを理解する。 2. 正常から逸脱した動作観察と動作分析、impairmentの推論を理解する。					
授業形態 授業の進め方	授業は、基本的に講義形式で行うが、グループ討論や発表も行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション、寝返りの動作観察とメカニズム (教科書 pp30-49)				予習:教科書の該当箇所について予習をすること。 復習:配布資料と教科書の該当箇所について、復習をすること。		
2. 寝返りの動作観察と動作分析、impairmentの推論1 (教科書 pp50-54)						
3. 寝返りの動作観察と動作分析、impairmentの推論2 (教科書 pp54-58)						
4. 起き上がりの動作観察とメカニズム (教科書 pp82-97)						
5. 起き上がりの動作観察と動作分析、impairmentの推論1 (教科書 pp98-103)						
6. 起き上がりの動作観察と動作分析、impairmentの推論2 (教科書 pp104-107)						
7. 起立・着座動作の動作観察とメカニズム (教科書 pp122-137)						
8. 起立・着座動作の動作観察と動作分析、impairmentの推論1 (教科書 pp138-142)						
9. 起立・着座動作の動作観察と動作分析、impairmentの推論2 (教科書 pp143-148)						
10. 歩行の動作観察とメカニズム1 (教科書 pp168-179)						
11. 歩行の動作観察とメカニズム2 (教科書 pp179-190)						
12. 歩行の動作観察と動作分析、impairmentの推論1 (教科書 pp191-194)						
13. 歩行の動作観察と動作分析、impairmentの推論2 (教科書 pp194-198)						
14. 歩行の動作観察と動作分析、impairmentの推論3 (教科書 pp198-202)						

定期試験 (期末レポート)					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)			復習：解説をノートにまとめること。		
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100 %	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等			筆記試験を実施する。 授業の内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	石井慎一郎	動作分析臨床活用講座		メジカルビュー	
参考文献	中村隆一 他	基礎運動学		医歯薬出版	
履修要件等					
研究室	1号館5階 第9研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:20~12:50		

科目No.	SPE03-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	理学療法評価学実習 I		担当教員	岡 健司		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必修	1単位	前期(30h)
授業内容の要約	筋骨格系の理学療法に必要な検査・測定技術と評価法を習得するために、主として実技実習を行う。徒手筋力検査法(MMT)の習熟を主たる目標とする。また、整形外科疾患の特殊検査、痛みの検査、およびバイタルサインの測定について学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 徒手筋力検査法(MMT)の意義を理解し、上肢・下肢・体幹のMMTを正確に実施できる 2. 代表的な痛みの検査、整形外科の特殊検査の特徴と実施方法を理解する 3. 聴診法による血圧測定を速やかに且つ正確に実施できる					
授業形態 授業の進め方	実技実習を中心に行うので、動きやすい服装で出席すること。 実技に関する知識・技術は学習者自身の自発的行動によって習熟するものであると理解すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 痛み、バイタルサイン(血圧、脈拍、呼吸、体温)の測定			復習: 血圧測定の実技練習			
2. MMT: 概要説明、肩関節の検査(1)			予習: 肩関節の解剖学、復習: 実技練習			
3. MMT: 肩関節の検査(2)			予習: 肩関節の解剖学、復習: 実技練習			
4. MMT: 肩甲帯の検査			予習: 肩甲帯の解剖学、復習: 実技練習			
5. MMT: 肘関節・前腕・手関節の検査			予習: 上肢の解剖学、復習: 実技練習			
6. これまでのまとめ(確認テスト)			予習: これまで学んだMMTの実技練習			
7. MMT: 股関節の検査(1)			予習: 股関節の解剖学、復習: 実技練習			
8. MMT: 股関節の検査(2)			予習: 股関節の解剖学、復習: 実技練習			
9. MMT: 膝関節・足関節の検査			予習: 下肢の解剖学、復習: 実技練習			
10. MMT: 足部・足趾の検査、頭頸部の検査(1)			予習: 下肢・頭頸部の解剖学、復習: 実技練習			
11. MMT: 頭頸部の検査(2)、体幹の検査(1)			予習: 頭頸部・体幹の解剖学、復習: 実技練習			
12. MMT: 体幹の検査(2)、手指・足趾の検査			予習: 体幹・指・趾の解剖学、復習: 実技練習			
13. 第VII~第XII脳神経の検査、MMT: 脳神経支配筋			予習・復習: 脳神経の働き			
14. 整形外科の特殊検査、これまでのまとめ			予習: これまで学んだMMTの実技練習			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		□レポート		■定期試験 100 %
	基準等					□その他 %
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	Hislop, Avers, Brown	「新・徒手筋力検査法 原著第9版」		共同医書出版社	2014	
	潮見・下田監修	「リハビリテーション基礎評価学」		羊土社	2014	
参考文献	福田修・監修	MMT-頭部・頸部・上肢 第2版		三輪書店	2016	
	福田修・監修	MMT-体幹・下肢 第2版		三輪書店	2016	
履修要件等						
研究室	岡: 1号館4階 第2研究室 中尾: 1号館5階 第3共同研究室		オフィスアワー	岡: 毎週火曜日 12:10~13:00 中尾: 毎週月曜日 12:10~13:00		

科目No.	SPE05-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	理学療法評価学実習Ⅱ		担当教員	酒井 桂太・理学療法士教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必修	1単位	後期(30h)
授業内容の要約	理学療法計測法、理学療法評価学Ⅰ・同実習を基にした障害毎の理学療法検査・測定とその評価について学内と関連施設にて実習・演習を行う					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学評価の流れについて理解する</li> <li>2. 関連施設にて、実際に評価を実習し修得する</li> <li>3. 検査結果を統合と解釈することで障害構造を把握し、治療計画に繋げる</li> </ol>					
授業形態 授業の進め方	学内評価学演習と関連施設にての評価実習を中心とする。関連施設での実習では実習の手引きの学生への注意事項を順守して取り組んでいただきたい。また、健康管理に気をつけてください。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 評価学実習(プレ実習)オリエンテーション			担当予定症例の予備学習をする			
2. 評価学実習(プレ実習)①問診・バイタルサインの確認			事前に脈拍・血圧測定の練習をする			
3. 記録と報告の書き方			SOAP形式でプレ実習の症例の記録をする			
4. 評価学実習(プレ実習)②動作観察			動作観察した結果をまとめる			
5. 初期評価の流れの理解			プレ実習の評価の計画を立てる			
6. 評価学実習(プレ実習)③検査・測定			検査測定の目的を確認し、実技練習する			
7. 初期評価の事例 演習その1 検査項目			プレ実習の記録をする			
8. 評価学実習(プレ実習)④検査・測定			検査測定の目的を確認し、実技練習する			
9. 初期評価の事例 演習その2 統合と解釈			プレ実習の症例の統合と解釈を行う			
10. 評価学実習(プレ実習)⑤検査・測定			検査測定の目的を確認し、実技練習する			
11. 初期評価の事例 演習その3 障害構造			プレ実習の症例のロジックツリーを作成する			
12. 評価学実習(プレ実習)⑥収集した情報のまとめ			グループごとの発表用レジメを作成する			
13. 3年次実習症例報告会への参加			3年生実習に向けての情報をもらう			
14. 症例紹介①			発表会の準備をする			
期 末 レ ポ ー ト 初期評価個人レポート						
15. 症例紹介②			発表会の準備をする			
成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 30%	<input checked="" type="checkbox"/> レポート 25%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 20%	<input checked="" type="checkbox"/> その他 25%	
	基準等	毎週の実施計画とケースノート作成	初期評価個人レポート	症例グループ発表会	授業の取組状況	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	潮見泰蔵ほか	「リハビリテーション基礎評価学」		羊土社	2014	
参考文献	特に指定しない					
履修要件等	実習要件2)を満たしていること					
研究室	1号館1階 理学療法専攻長室		オフィスアワー	毎週月曜日 14:40~16:10		

科目No.	SPT02-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	物理療法学実習		担当教員	肥田 光正・今岡 真和		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	前期(30h)
授業内容の要約	1年生後期で学習した物理療法の使用手順を実践する。物理療法機器の操作と被験者体験を通し、治療場面における対象者への配慮、オリエンテーション、方法の工夫等、実施上の理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 健常者に対して、正しい手順で各種物理療法を実践することができる 2. 各種物理療法の適応、禁忌事項を説明できる					
授業形態 授業の進め方	8グループに分かれ、各種物理療法を正しい手順でグループワークの形式で実践する。教科書の手順を熟読しながら物理用法を実践し、毎回の授業後には実施レポートの提出を求める。授業の後半では、実際の症例の問題点を呈示し、解決するために必要な物理療法についてのプレゼンテーションを実施する機会を設ける。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 理学療法の進め方について						
2. 実習前オリエンテーション(授業概要説明とレポート課題の提示)						
3. 各機器構造と取り扱い方法・手順の説明						
4. 物理刺激と生体反応 ① 温熱療法 ホットパック, パラフィン浴				①に対するレポート課題		
5. 物理刺激と生体反応 ② 高周波療法 極超短波				②に対するレポート課題		
6. 物理刺激と生体反応 ③ 高周波療法 超音波				③に対するレポート課題		
7. 物理刺激と生体反応 ④ 寒冷療法 コールドパック, クリッカー				④に対するレポート課題		
8. 物理刺激と生体反応 ⑤ 水治療法 全身浴, 部分浴				⑤に対するレポート課題		
9. 物理刺激と生体反応 ⑥ 電気療法 低周波療法(TENS)				⑥に対するレポート課題		
10. 物理刺激と生体反応 ⑦ 電気療法 低周波療法(EMS)				⑦に対するレポート課題		
11. 物理刺激と生体反応 ⑧ 牽引療法 腰椎、頸椎牽引				⑧に対するレポート課題		
12. スポーツ障害に対する物理療法適応の考え方				スポーツ障害の復習		
13. 各種運動器疾患に対する物理療法適応の考え方				各種運動器疾患の復習		
14. 各種中枢神経疾患に対する物理療法適応の考え方				各種中枢神経疾患の復習		
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 30%	■定期試験 60%	■その他 10%	
	基準等	各レポートの提出状況と内容を吟味する。		授業中に教授した範囲から出題する。	授業態度, 実習参加の積極性を吟味する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	庄本康二ほか	エビデンスから身につける物理療法		羊土社	2017	
参考文献	Michelle H. Cameron 原著/ 渡部一郎 訳	EBM 物理療法		医歯薬出版	2015	
	松澤 正ほか	「物理療法学」		金原出版	2012	
	履修要件等					
研究室	3号館2階 第27研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 13:00 ~ 14:30		

科目No.	SPT06-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次			
授業科目名	運動療法学実習		担当教員	小奈 武陸					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	前期(30h)			
授業内容の要約	理学療法の中心的そして、基本的な技術である運動療法を2年次で履修した「運動療法学総論」を基本に進めていく。この授業は実習であるが、理論と手技を併せて学習するという観点から、講義と実習を交えて授業を行う。								
学修目標 到達目標	1. 運動療法の目的や基本原理を理解することができる 2. 基本的な運動療法を説明、実施ができる 3. 基本的な運動療法を実施するにあたっての注意、禁忌の理解ができる								
授業形態 授業の進め方	演習、講義、ケーススタディ学習								
授業計画			授業時間外に必要な学修		5時間以上				
1. 運動療法総論の総復習			運動療法学総論の復習						
2. 関節運動の基礎原理			授業の復習						
3. ROMエクササイズ(上肢・体幹) 講義と演習			授業の復習						
4. ROMエクササイズ(上肢・体幹) 講義と演習			授業の復習						
5. ROMエクササイズ(下肢) 講義と演習			授業の復習						
6. ROMエクササイズ(下肢) 講義と演習			授業の復習						
7. ストレッチング(上肢・体幹) 講義と演習			授業の復習						
8. ストレッチング(下肢) 講義と演習			授業の復習						
9. 3~8までのまとめ実技テストとレポート			3~8までの復習とテスト						
10. 抵抗運動(上肢・体幹) 講義と演習			授業の復習						
11. 抵抗運動(下肢) 講義と演習			授業の復習						
12. 機能向上運動Ⅰ(バランス訓練・初動負荷・終動負荷)			授業の復習						
13. 機能向上運動Ⅱ(バランス訓練・初動負荷・終動負荷)			授業の復習						
14. 10~13までのまとめ実技テストとレポート			10~13までの復習とテスト						
定期試験(期末レポート)									
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)			全授業の復習						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	40%	■定期試験	10%	■その他	50%
	基準等	2回の課題レポート提出		期末テストは全授業の課題レポート		2回の実技テスト			
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年		
	Carolyn Kisner ほか	最新運動療法大全 I 基礎編 第六版			GAIA BOOKS		2012		
参考文献	特に指定しない								
履修要件等	学校のジャージで参加すること。								
研究室	1号館4階 第3研究室			オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~12:50				

科目No.	SPT03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	日常生活活動学		担当教員	久利 彩子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	前期(30h)
授業内容の要約	適切な理学療法を実施するためには、患者さんの日常生活活動（ADL）を理解することが必須である。当該授業では、ADLの概念、日常生活活動の評価の考え方と方法、日常生活活動を支援する機器、日常生活活動における基本動作と身の回り動作、疾患別ADLについて、学習する。					
学修目標 到達目標	1. 日常生活活動（ADL）の概念や日常生活活動の評価の考え方と方法を述べることができる。 2. 日常生活活動を支援する機器について述べるができる。 3. 日常生活活動における基本動作や身の回り動作、疾患別ADLの概要を述べるができる。					
授業形態 授業の進め方	授業は、基本的に講義形式で行うが、グループ討論や発表も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション、総論 (教科書 pp2-20)			予習:教科書の該当箇所について予習をすること。 復習:配布資料と教科書の該当箇所について、復習をすること。			
2. ADL評価とその実際① ADL評価とは (教科書 pp21-36)						
3. ADL評価とその実際② 日常生活活動の動作分析の視点 (教科書 pp37-44)						
4. ADL評価とその実際③ バーセルインデックス (教科書 pp45-54)						
5. ADL評価とその実際④ 機能的自立度評価法（FIM） (教科書 pp55-66)						
6. 補装具 (教科書 pp67-78)						
7. 起居・移動動作① 総論 (教科書 pp79-86)						
8. 起居・移動動作② 起居動作 (教科書 pp87-100)						
9. 起居・移動動作③ 移動動作 (教科書 pp101-108)						
10. 起居・移動動作④ 歩行動作 (教科書 pp109-118)						
11. 身の回り動作 (教科書 pp119-128)						
12. ADLを支援する機器 (教科書 pp129-140)						
13. 疾患別ADL指導（中枢神経障害） (教科書 pp149-162)						
14. 疾患別ADL指導（運動器障害） (教科書 pp165-174)						

定期試験（期末レポート）

15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）

成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100 %	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等			筆記試験を実施する。 授業の内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	河元岩男、他	「日常生活活動学テキスト」		南江堂	
参考文献	特に指定しない				
履修要件等					
研究室	1号館5階 第9研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:20~12:50	

科目No.	SPT04-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次	
授業科目名	日常生活活動学実習		担当教員	久利 彩子			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	後期(30h)	
授業内容の要約	適切な理学療法を実施するためには、患者さんの日常生活活動(ADL)を理解することが必須である。当該授業では、ADL動作能力維持改善のための介助と練習・指導の実技を行う。さらに、ADLを支援する機器の実物を手に取り、概要を学ぶ。						
学修目標 到達目標	1. ADL動作練習の基本的な考え方や基本的な練習・指導方法を理解し、実施できるようになる。 2. ADLを支援する機器の基本的な種類を理解できるようになる。						
授業形態 授業の進め方	授業は、基本的に実習形式で行う。グループで協力しあって実習に取り組み、発表も行う。授業中、介助や練習・指導の実技についての到達度を確認する。						
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上		
1. オリエンテーション、ADL動作能力維持改善のための介助と練習・指導(総論)				復習：配布資料と授業中のメモを、ノートにまとめたおすこと。			
2. 寝返り動作能力維持改善のための介助と練習・指導							
3. 起き上がり動作能力維持改善のための介助と練習・指導							
4. 端座位姿勢保持動作能力維持改善のための介助と練習・指導							
5. 立ち上がり動作能力維持改善のための介助と練習・指導							
6. 立位保持動作能力維持改善のための介助と練習・指導							
7. 移乗動作能力維持改善のための介助と練習・指導							
8. 車いす利用時の動作能力維持改善のための介助と練習・指導							
9. 歩行補助具と歩行能力維持改善のための介助と練習・指導							
10. 福祉用具の適応とその代償機能							
11. 疾患別動作練習と指導(中枢神経障害)							
12. 疾患別動作練習と指導(骨関節障害)							
13. 疾患別動作練習と指導(その他)							
14. 住環境や生活環境に踏み込んだ練習・指導							
定期試験(期末レポート)							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等					筆記試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	授業中、介助や練習・指導の実技についての到達度を確認する。
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年	
	特に指定しない						
参考文献	河元岩男、他	「日常生活活動学テキスト」		南江堂			
履修要件等							
研究室	1号館5階 第9研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:20~12:50			

科目No.	SPT12-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	義肢装具学		担当教員	酒井 桂太		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	後期(30h)
授業内容の要約	リハビリテーション医療や福祉分野で取り扱う義肢装具を中心に、その目的や構造・機能・種類や特徴について理解する。一般的な義肢装具の処方、適応、適合判定などの基本を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 義肢装具の目的・構造の概略について述べることができる 2. 義肢装具の機能・種類の概略について述べることができる 3. 義肢装具の適応・適合判定項目について述べるができる					
授業形態 授業の進め方	講義および実際の装具の名称や構造を確認し、適合判定を行う。教科書の各ページを事前に一読して予習すること。実習では、グループごとに各課題についてディスカッションし、課題発表を行う。なお、「義肢装具学」では装具を中心に学び、「義肢装具学実習」では義肢を中心に学ぶ。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 装具学総論 (教科書 pp1-8)				定義、分類について復習する		
2. 下肢装具の部品とその機能 (教科書 pp11-18)				部品の名称と機能を復習する		
3. 短下肢装具 (教科書 pp21-30)				AFOの種類と特徴について復習する		
4. 長下肢装具 (教科書 pp31-37)				KAFOの種類と適応について復習する		
5. 股装具・膝装具 (教科書 pp37-40)				各装具の目的と適応を復習する		
6. 靴型装具 (教科書 pp41-51)				靴型装具の種類と適応を復習する		
7. 体幹装具 (教科書 pp73-83)				体幹装具の種類と適応を復習する		
8. 上肢装具 (教科書 pp85-90)				上肢装具の種類と適応を復習する		
9. 実習 各種装具の名称と構造の確認				KAFOの各名称を復習する		
10. 実習 膝継手・足継手の調整				膝継手と足継ぎ手の調節方法を復習する		
11. 車椅子 (教科書 pp95-101)				車いすの各名称と適合判定を復習する		
12. 下肢装具のチェックアウト pp53-61				チェックアウトの内容を復習する		
13. 実習 長下肢装具の調整とチェックアウト (教科書 pp63-71)				チェックアウトの流れを復習する		
14. 実習 川村義肢による陰性モデル作成				装具作成過程を復習する (教科書 pp151-160)		
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%
	基準等					<input type="checkbox"/> その他 %
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	石川朗他編	「装具学」		中山書店	2013	
参考文献	細田多穂監修	「義肢装具学テキスト」		南江堂	2009	
履修要件等	解剖学・生理学・運動学・整形外科学・内科学が履修済みであることが望ましい					
研究室	1号館1階 理学療法専攻長室		オフィスアワー	毎週月曜日 14:40~16:10		

科目No.	SPT13-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次		
授業科目名	義肢装具学実習		担当教員	村西 壽祥				
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間		
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	後期(30h)		
授業内容の要約	切断および義肢についての基礎知識を習得し、切断者に対する評価および理学療法について学ぶ。							
学修目標 到達目標	1. 下肢切断について、その対象となる病態について説明できる 2. 義足について、構造および機能的役割を説明できる 3. 義足に関する理学療法評価および理学療法が説明できる							
授業形態 授業の進め方	講義は教科書と板書を中心に進める。 切断原因となる疾患と対象者の特性を理解することが重要となる。 切断による身体への影響について、解剖学的理解が重要となる。							
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上			
1. 総論、切断の原因			復習：切断原因となる疾患の特徴					
2. 切断部位と切断術			復習：切断部位毎の特徴、切断による影響					
3. 大腿切断と大腿義足①（大腿ソケット）			復習：大腿ソケットの種類と構造					
4. 大腿切断と大腿義足②（膝継手）			復習：膝継手の役割と制御因子					
5. 下腿切断と下腿義足①（下腿ソケット）			復習：下腿ソケットの種類と構造					
6. 下腿切断と下腿義足②（足部）			復習：足部・足継手の種類と役割					
7. 切断者に対する評価①（全体評価）			復習：切断者に対する理学療法評価方法					
8. 切断者に対する評価②（断端評価）			復習：断端の評価方法					
9. 切断のリハビリテーション①（断端管理）			復習：断端の管理方法、弾性包帯について					
10. 切断のリハビリテーション②（立位・歩行練習）			復習：立位・歩行練習の進め方					
11. 義足の異常歩行①（下腿義足）			復習：下腿義足の異常歩行の種類と原因					
12. 義足の異常歩行②（大腿義足）			復習：大腿義足の異常歩行の種類と原因					
13. 義足の異常歩行③（大腿義足）			復習：大腿義足の異常歩行の種類と原因					
14. 特別講義（川村義肢より講師派遣）								
定期試験（期末レポート）								
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）								
成績評価方法	項目	■課題・小テスト30%	□レポート	%	■定期試験	70%	□その他	%
	基準等	毎回、授業内で行う小テストの平均点を定期試験テストに加算する。		記述試験のみ（記号問題、選択問題は実施しない）、解答は説明することを求める				
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年			
	細田多穂ほか	「義肢装具学テキスト 第2版」		南江堂	2013			
参考文献	伊藤利之	「義肢装具のチェックポイント 8版」		医学書院	2014			
履修要件等	形態・機能学解剖学領域Ⅰ・Ⅱ，解剖学実習Ⅰ・Ⅱ							
研究室	1号館5階 第21研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00				

科目No.	SPT07-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	運動器系理学療法学		担当教員	講師未定		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	後期(30h)
授業内容の要約	代表的な運動器系の疾患・障害の概要について学習する 代表的な運動器系の疾患・障害を理解し、理学療法の評価・治療について学習する					
学修目標 到達目標	1. 代表的な運動器系疾患・障害の概要を説明できる 2. 代表的な運動器系の疾患・障害に対する理学療法評価を説明できる 3. 代表的な運動器系の疾患・障害に対する理学療法治療を説明できる					
授業形態 授業の進め方	教科書を中心とした講義形式で行う 事前に教科書を読み、疑問を持って授業に取り組むこと					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 総論、変形性脊椎症に対する理学療法 (教科書 p1~15、27~36)			予習：教科書 p1~15、27~36 を読む 復習：運動器障害の基礎的知識、基本的な理学療法を学習する。変形性脊椎症の概要、評価、治療についてまとめる。			
2. 変形性膝関節症に対する保存療法 (教科書 p37~46)			予習：教科書 p37~46 を読む 復習：変形性膝関節症 (保存療法) の概要、評価、治療についてまとめる。			
3. 変形性膝関節症に対する手術療法・高齢者プログラム (教科書 p47~65)			予習：教科書 p47~65 を読む 復習：変形性膝関節症 (手術療法・高齢者プログラム) の概要、評価、治療についてまとめる。			
4. 変形性股関節症に対する理学療法 (教科書 p67~86)			予習：教科書 p67~86 を読む 復習：変形性股関節症の概要、評価、治療についてまとめる。			
5. 靭帯損傷・半月板損傷に対する理学療法 (教科書 p87~116)			予習：教科書 p87~116 を読む 復習：靭帯損傷・半月板損傷の概要、評価、治療についてまとめる。			
6. 脱臼・動揺関節・関節不安定症に対する理学療法 (教科書 p117~136)			予習：教科書 p117~136 を読む 復習：脱臼・動揺関節・関節不安定症の概要、評価、治療についてまとめる。			
7. 大腿骨頸部骨折・転子部骨折に対する理学療法 (教科書 p149~176)			予習：p149~176 を読む 復習：大腿骨頸部骨折・転子部骨折の概要、評価、治療についてまとめる。			
8. 代表的な下肢骨折に対する理学療法 (教科書 p177~186)			予習：教科書 p177~186 を読む 復習：代表的な下肢骨折の概要、評価、治療についてまとめる。			
9. 代表的な上肢骨折に対する理学療法 (教科書 p187~195)			予習：教科書 p187~195 を読む 復習：代表的な上肢骨折の概要、評価、治療についてまとめる。			

10. 脊椎骨折・筋軟部組織性障害に対する理学療法(教科書 p197～216)		予習：教科書 p197～216 を読む 復習：脊椎骨折・筋軟部組織性障害の概要、評価、治療についてまとめる。							
11. 肩関節疾患に対する理学療法(教科書 p217～236)		予習：教科書 p217～236 を読む 復習：肩関節疾患の概要、評価、治療についてまとめる。							
12. Motor unit 性障害、頸椎椎間板ヘルニア、頸部脊椎症、頸部後縦靭帯骨化症に対する理学療法(教科書 p237～256)		予習：教科書 p237～256 を読む 復習：Motor unit 性障害、頸椎椎間板ヘルニア、頸部脊椎症、頸部後縦靭帯骨化症対の概要、評価、治療についてまとめる。							
13. 腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症・慢性腰痛症に対する理学療法(教科書 p257～276)		予習：教科書 p257～276 を読む 復習：腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症・慢性腰痛症の概要、評価、治療についてまとめる。							
14. 関節リウマチに対する理学療法(教科書 p277～296)		予習：教科書 p277～296 を読む 復習：関節リウマチの概要、評価、治療についてまとめる。							
定期試験									
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)									
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験	100 %	<input type="checkbox"/> その他	%
	基準等					例) 定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。			
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年		
	細田多穂 監修	「シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版」			南江堂		2016		
参考文献	奈良勲 監修	「標準理学療法学 骨関節理学療法学」			医学書院		2013		
履修要件等	「運動療法学総論」「運動療法学実習」「機能運動学」「機能運動学実習」が履修済であることが望ましい。								
研究室	○号館○階 第○研究室			オフィスアワー	毎週○曜日 ○○:○○～○○:○○				

科目No.	SRP06-1E		授業形態	演習	開講年次	1年次～
授業科目名	地域支援学実習		担当教員	久利 彩子 ・ 今井 亮太		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		選択必修	1単位	前期(30h)
授業内容の要約	学外の組織と連携し、当該組織の主に地域における移動についての問題解決に主体的に関与する。学外の組織と連携して一定の成果物を作成し、かつ、関与した事象に関する学外への情報発信を行う。					
学修目標 到達目標	1. 地域生活に重要な視点について、障がい者の視点から考えることができるようになる。 2. 世代間や異職種間の交流を通じ、問題解決能力とコミュニケーション能力を育む。 3. 関与した事象に関する学外への情報発信スキルを育む。					
授業形態 授業の進め方	「地域支援学実習」は、ディスカッションや本学地域周辺でのフィールドワークを行う。また、得られた情報を集約して、第三者に伝える資料も作成する。学外の組織と連携し、当該組織の問題解決に主体的に関与する。通常授業時間以外(土曜日)に開講予定。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
(第1日目)				授業中の自らの行動を振り返り、次回の授業のためにどのようにしたらより良い内容となるか、しっかり考えること。		
1. オリエンテーションと学内演習(トイレチェックシート作成)						
2. フィールドワーク1(学内トイレチェック、発表)、フィールドワーク2の計画						
3. フィールドワーク2-1(貝塚駅周辺、市役所前周辺のトイレチェック①、情報発信することについて、施設様への説明と同意)						
4. フィールドワーク2-2(貝塚駅周辺、市役所前周辺のトイレチェック②、情報発信することについて、施設様への説明と同意)						
5. 学内演習(フィールドワーク2のまとめと、フィールドワーク3の計画)						
(第2日目)						
6. フィールドワーク3-1(近義の里周辺、石才周辺のトイレチェック①、情報発信することについて、施設様への説明と同意)						
7. フィールドワーク3-2(近義の里周辺、石才周辺のトイレチェック①、情報発信することについて、施設様への説明と同意)						
8. 学内演習(フィールドワーク3のまとめと、成果物作成計画)						
9. 学内演習(泉華祭発表準備①)						
10. 学内演習(泉華祭発表準備②、途中経過発表)						
(第3日目)						
11. 学内演習(泉華祭発表準備③、成果発表)						
12. 学内演習(フィールドワーク4の計画)						

13. フィールドワーク 4 (学内の車いすユーザのための動線確認)					
14. 学内演習 (フィールドワーク 4 のまとめ)					
学内演習 (授業のまとめ)					
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input type="checkbox"/> その他 100 %
	基準等				試験は実施しない。授業への参加状況や取り組み姿勢などを総合的に評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		特に指定しない			
参考文献	特に指定しない				
履修要件等	開講日は教員と履修学生とで調整・決定する。決定した開講日であっても、天候によっては中止する場合がある。学外の組織と協調して授業を進行する。世代間交流や異職種間交流がある。気配り目配り心配りがとても重要である。物事への探究心も必須。泉華祭で成果発表を行う。交通費の一部は大学が支援する。				
研究室	久利：1号館5階 第9研究室 今井：1号館5階 第3共同研究室	オフィスアワー	久利：毎週火曜日 12：20～12：50 今井：		

科目No.	SCP04-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床ゼミⅡ（PT）		担当教員	久利 彩子・岡 健司・今井 亮太		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必修	1単位	前期（30h）
授業内容の要約	<p>学生生活に関する情報共有の場として、学生主体に授業を展開する。理学療法士に必要な知識、臨床的思考を深める。また、理学療法士が扱う各種機器に触れて、使い方を学ぶ。また、解剖・運動学等の知識を再学習する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床検査・測定実習の基盤となる知識、臨床的思考を身につける。</li> <li>2. 理学療法士が扱う各種機器に触れて、使い方の概要が理解できる。</li> <li>3. 運動や動作を理解するために必要な、解剖・運動学等の知識を理解する</li> </ol>					
授業形態 授業の進め方	<p>小テスト、グループディスカッション、発表およびこれらに対するフィードバックを中心に行う。また、学生生活に関する情報共有の場として、学生主体に授業を展開する時間帯もある。</p>					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション			<p>授業で実施した内容を振り返り、知識技術を補うこと。</p>			
2. 学生生活に関する情報共有						
3. 体育祭						
4. 国家試験問題を用いた演習 1						
5. 国家試験問題を用いた演習 2						
6. 国家試験問題を用いた演習 3						
7. 国家試験問題を用いた演習 4						
8. 国家試験問題を用いた演習 5						
9. 国家試験問題を用いた演習 6						
10. 国家試験問題を用いた演習 7						
11. 国家試験問題を用いた演習 8						
12. 国家試験問題を用いた演習 9						
13. 理学療法士が扱う各種機器の取り扱い						
14. 理学療法士が扱う各種機器の取り扱い実技小テスト						
15. まとめテスト						
成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 100%	<input type="checkbox"/> レポート %	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input type="checkbox"/> その他 %	
	基準等	授業中に実施する小テストで評価する。				
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	中村隆一 他	基礎運動学		医歯薬出版		
参考文献						
履修要件等						
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No.	SCP05-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅱ（PT）		担当教員	久利 彩子・岡 健司・今井 亮太		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必修	1単位	後期（30h）
授業内容の要約	臨床検査・測定実習に向けて、知識・技術を深める。 臨床検査・測定実習に向けて、事務手続きを行う。 人体解剖学実習見学に向けて、知識を深める。					
学修目標 到達目標	1. 臨床検査・測定実習の基盤となる知識、技術を身につける 2. 臨床検査・測定実習の事務手続きを確実に行う 解剖の知識を深める					
授業形態 授業の進め方	基本的に授業は演習形式で行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション				授業で実施した内容を振り返り、知識技術を補うこと。実習事務手続きは、責任を持って確実に実施すること。		
2. ROM 実技練習 その1						
3. 解剖 小テスト						
4. 解剖実習見学オリエンテーション						
5. 解剖実習見学						
6. ROM 実技練習 その2						
7. 実習てびき説明						
8. MMT 実技練習 その1						
9. 実習事務手続き						
10. MMT 実技練習 その2						
11. 実技テスト（ROM MMT）						
12. SVM 準備						
13. SVM1						
14. SVM2						
15. 実習事務手続き						
成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 50%	<input type="checkbox"/> レポート %	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 50%	
	基準等	授業中に実施する小テストで評価する。		実習に関する提出物で評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
		実習のてびき				
参考文献	野村 巖、編	「標準理学・作業療法学 解剖学第4版」		医学書院		
	潮見泰蔵、他	「リハビリテーション基礎評価学」		羊土社		
	Hislop ら	「新徒手筋力検査法 原著第9版」		協同医書		
履修要件等	臨床検査・測定実習に参加見込みであること					
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No.	SCP06-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次			
授業科目名	臨床検査・測定実習（PT）		担当教員	酒井 桂太・理学療法学専攻教員					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	理学療法学	臨床実習		必修	3単位	後期(135h) 3週間			
授業内容の要約	臨床場面において、実習指導者の指導の下、検査・測定の意義および目的を理解し、基本的な技術を修得し、信頼性のある結果を導き出すように努め、症例に応じた検査測定の適応や方法を理解する。								
学修目標 到達目標	1. 理学療法における検査・測定の意義および目的を理解し、基本的な検査・測定（手順や方法）を実施することができる。 2. 検査・測定結果と障害との関連性を理解できる。								
授業形態 授業の進め方	実地体験学習。実習の手引きをよく確認すること。臨床実習ですので自ら学ぶ姿勢で実習に取り組んでいただきたい。なお、実習後セミナーである各グループの実習報告会にて実習の成果を発表し、積極的にディスカッションしていただきたい。								
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分程度				
3週にわたり病院で検査・測定実習を行う。実習後にセミナーにて課題発表会を行う。			毎日の実習体験をデイリーノートにまとめる。実習報告会用のレジメをA3用紙1枚にまとめる。不十分な基礎知識を自己学習する。						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input type="checkbox"/> 定期試験	%	<input checked="" type="checkbox"/> その他	100%
	基準等	実習成績と実習報告セミナー、提出物等を総合して判定する。							
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年			
		「理学療法学専攻：実習の手引き第4版」							
参考文献	特に指定しない								
履修要件等	実習要件2) を満たしていること								
研究室	1号館1階 理学療法専攻長室		オフィスアワー	毎週月曜日 14:40～16:10					

科目No.	SBO08-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	作業療法運動学Ⅱ		担当教員	南 征吾		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必修	1単位	前期(30h)
授業内容の要約	身体障害分野の作業療法に必要な身体運動の基礎を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 身体運動の基礎を深めることができることを目指す 2. 作業療法に必要な身体運動機能の分析力を身につけることを目指す					
授業形態 授業の進め方	身体運動を捉えて作業療法の実践に関する根拠となる、身体構造を学んでいく。 日常生活から身体の運動の視点をもっておくこと。また、各関節について、整理/理解力を促進するために学生同士でグループワークを取り入れる。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. 体軸骨格(骨と関節構造)			復習: 脊柱の関節構造を理解する			
2. 体軸骨格(筋と関節の相互作用)			復習: 脊柱の筋と関節を理解する			
3. 体軸骨格(咀嚼、まとめ)			復習: 脊柱の周囲の筋と関節の相互作用			
4. 肩複合体(骨と関節構造)			復習: 肩複合体の関節構造を理解する			
5. 肩複合体(筋と関節の相互作用)			復習: 肩複合体の筋と関節の相互作用を理解する			
6. 肩複合体(まとめ、触診)			復習: 肩複合体の周囲の骨と筋を理解する			
7. 肘と前腕(骨と関節構造)			復習: 肘と前腕の関節構造を理解する			
8. 肘と前腕(筋と関節の相互作用)			復習: 肘と前腕の筋と関節の相互作用を理解する			
9. 肘と前腕(まとめ、触診)			復習: 肘と前腕の周囲の骨と筋を理解する			
10. 手根(骨と関節構造)			復習: 手根の関節構造を理解する			
11. 手根(筋と関節の相互作用)			復習: 手根の筋と関節の相互作用を理解する			
12. 手根(まとめ、触診)			復習: 手根の周囲の骨と筋を理解する			
13. 手(骨と関節構造)			復習: 手の関節構造を理解する			
14. 手(筋と関節の相互作用)			復習: 手の周囲の骨と筋を理解する			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 20%	■定期試験 60%	■その他 10%	
	基準等	各授業に関する課題があり、その取り組む姿勢や提出物の内容を評価する。	各授業に関するレポートがあり、提出物の内容を評価する。	定期試験は筆記試験で実施する。	授業への参加度、定期試験の受験資格を失わない出席が必要である。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	島田智明(翻訳)	筋骨格系のキネシオロジー		医歯薬出版	2012	
参考文献	塩田悦仁(翻訳)	カラー版カパンジー機能解剖学		医歯薬出版		
履修要件等						
研究室	3号館2階 第25研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00		

科目No.	SBO09-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次			
授業科目名	作業療法運動学演習		担当教員	南 征吾					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	作業療法学	基礎作業療法学		必修	1単位	後期(30h)			
授業内容の要約	日常生活の基礎となる正常動作の分析の基礎を学ぶ。								
学修目標 到達目標	1. 正常運動の基礎を深めることを目指す。 2. 作業療法に必要な動作分析力を身につけることを目指す。								
授業形態 授業の進め方	正常運動の基礎を捉えて作業療法の実践に関する根拠となる動作を学ぶ。 日常生活から正常運動に関する視点をもっておくと授業に参加しやすい。 また、動作分析を促すために学生同士でグループワークを取り入れて学ぶ。								
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上				
1. 運動と動作の見方、オリエンテーション			復習：動作分析の見方を整理する						
2. 動作分析の手順			復習：動作分析の手順を整理する						
3. バランス制御と筋活動			復習：動作分析に必要な制御系を整理する						
4. 寝返り動作(概要)			復習：寝返り動作のポイントを整理する						
5. 寝返り動作(実地)			復習：寝返り動作の分析を確認する						
6. 寝返り動作(レポート作成、グループワーク)			復習：寝返り動作の分析をまとめる						
7. 起き上がり動作(概要)			復習：起き上がり動作のポイントを整理する						
8. 起き上がり動作(実地)			復習：起き上がり動作の分析を確認する						
9. 起き上がり動作(レポート作成、グループワーク)			復習：起き上がり動作の分析をまとめる						
10. 立ち上がり動作(概要)			復習：立ち上がり動作のポイントを整理する						
11. 立ち上がり動作(実地)			復習：立ち上がり動作の分析を確認する						
12. 立ち上がり動作(レポート作成、グループワーク)			復習：立ち上がり動作の分析をまとめる						
13. 歩行動作(実地)			復習：歩行動作の分析を確認する						
14. 歩行動作(レポート作成、グループワーク)			復習：歩行動作の分析をまとめる						
定期試験(期末レポート)									
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	30%	■定期試験	60%	■その他	10%
	基準等			各授業に関するレポートがあり、提出物の内容を評価する。		定期試験は筆記試験で実施する。		授業への参加度、定期試験の受験資格を失わない出席が必要である。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年			
	石井真一郎(編著)	動作分析臨床活用講座			メディカルビュー	2013			
参考文献	島田智明(翻訳)	筋骨格系のキネシオロジー			医歯薬出版	2012			
履修要件等									
研究室	3号館2階 第25研究室			オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00				

科目No.	SBO05-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	基礎作業分析学実習		担当教員	水野 貴子・生水 智子・嶋野 広一		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必修	1単位	前期(45h)
授業内容の要約	作業療法で用いる代表的な作業活動を体験し、作業に必要とされる道具や材料、工程や技法について学び、身体、認知機能、精神機能に及ぼす影響を考察する。治療として作業活動を用いるための基礎を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 作業活動ごとの特徴が説明できる 2. 運動、知覚、認知、精神機能について作業分析ができる 3. 作業を指導する方法を知る					
授業形態 授業の進め方	講義と作業実習を行う。 基礎作業学、基礎作業分析学演習Ⅰ・Ⅱの復習をしておくこと。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. タイルモザイク：コースター1（水野）			復習：タイルモザイクについてのレポート作成			
2. タイルモザイク：コースター2（水野）			復習：タイルモザイクについてのレポート作成			
3. タイルモザイク：コースター3（水野）			復習：タイルモザイクについてのレポート作成			
4. タイルモザイク：コースター4（水野）			復習：タイルモザイクについてのレポート作成			
5. ネット手芸：小物入れ1（水野）			復習：ネット手芸についてのレポート作成			
6. ネット手芸：小物入れ2（水野）			復習：ネット手芸についてのレポート作成			
7. ネット手芸：小物入れ3（水野）			復習：ネット手芸についてのレポート作成			
8. ネット手芸：小物入れ4（水野）			復習：ネット手芸についてのレポート作成			
9. 編物（棒針）：リストバンド1（生水）			復習：編物（棒針）についてのレポート作成			
10. 編物（棒針）：リストバンド2（生水）			復習：編物（棒針）についてのレポート作成			
11. 編物（棒針）：リストバンド3（生水）			復習：編物（棒針）についてのレポート作成			
12. 編物（棒針）：リストバンド4（生水）			復習：編物（棒針）についてのレポート作成			
13. マクラメ：ミサンガ1（嶋野）			復習：マクラメについてのレポート作成			
14. マクラメ：ミサンガ2（嶋野）			復習：マクラメについてのレポート作成			
15. ビーズ細工：コースター1（生水）			復習：ビーズ細工についてのレポート作成			
16. ビーズ細工：コースター2（生水）			復習：ビーズ細工についてのレポート作成			
17. 紙細工：つまようじ入れ（嶋野）			復習：紙細工についてのレポート作成			
18. 張り子：お面（嶋野）			復習：張り子についてのレポート作成			
19. テーブルゲーム：将棋、百人一首など（生水）			復習：テーブルゲームの種類とルール of 把握			
20. わなげ、ボール（水野・生水）			復習：わなげ、ボールの種類と治療目的・方法の把握			
21. セラプラスト、ペグボード、カラオケ（水野・生水）			復習：セラプラストなどの種類と治療目的・方法の把握			
22. 料理：お菓子1			復習：お菓子作りの計画書作成			
23. 料理：お菓子2、総括（水野）			復習：料理の種類と治療目的・方法の把握			
成績評価 方法	項目	■課題 20%		■レポート 80%		
	基準等	各作業活動の作品を提出。作成方法についての理解度を評価する。		各作業活動の開始時にレポートを配布し、与えられた課題を講義内容の視点と絡めて考察しているかを評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	講義資料を随時配布する。					

参考文献	浅沼辰志	「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト2 作業学 改訂第2版」	メジカルビュー社	2015
	小林夏子ほか	「基礎作業学 第2版」	医学書院	2012
	澤田雄二	「作業療法学全書 第2巻 基礎作業学 改訂第3版」	協同医書出版	2009
履修要件等	「基礎作業学」「基礎作業分析学演習Ⅰ・Ⅱ」が履修済であることが望ましい。			
研究室	1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	各担当教員オフィスアワー	

科目No.	SBO06-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	応用作業分析学実習		担当教員	武井 麻喜・嶋野 広一		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必修	1単位	後期(45h)
授業内容の要約	前半は作業療法における作業と作業分析の位置づけを確認し、各項目の考え方を整理したうえで実際に活動し分析を進めていく。後半は「生活行為向上マネジメント」の手法を学生間で実践していく。アセスメント、プランニング、実践を通し、作業は人を元気にすることを学修する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業分析の臨床的な意義について理解し説明ができる</li> <li>2. 適切な手順にしたがって作業分析ができる</li> <li>3. 「生活行為向上マネジメント」の概要を理解し説明できる</li> <li>4. 対象者の“意味ある作業”を見つけ支援することの重要性について理解する</li> </ol>					
授業形態 授業の進め方	前半は講義後に作業活動実習と分析、グループ討論、発表を行う。 後半は学生同士がペアになって、お互いに生活行為向上プログラムの手法を実践していく。 「楽しく真剣に」取り組むこと。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. 作業分析とは、作業工程分析 講義・分析			グループ討論をもとに講義内容・分析結果をレポートにまとめること			
2. 作業分析の実際（基礎項目分析）講義・分析			グループ討論をもとに講義内容・分析結果をレポートにまとめること			
3. 作業分析の実際（運動機能の分析）講義						
4. 作業分析の実際（運動機能の分析）分析			グループ討論をもとに講義内容・分析結果をレポートにまとめること			
5. 作業分析の実際（感覚知覚認知機能分析）講義						
6. 作業分析の実際（感覚知覚認知機能分析）分析			グループ討論をもとに講義内容・分析結果をレポートにまとめること			
7. 作業分析の実際（作業過程・作品の分析）講義						
8. 作業分析の実際（作業過程・作品の分析）分析			グループ討論をもとに講義内容・分析結果をレポートにまとめること			
9. 作業分析の実際（コミュニケーション分析）講義						
10. 作業分析の実際（コミュニケーション分析）分析			グループ討論をもとに講義内容・分析結果をレポートにまとめること			
11. 作業分析の実際（リスクの分析）講義						
12. 作業分析の実際（リスクの分析）分析			グループ討論をもとに講義内容・分析結果をレポートにまとめること			
13. 生活行為向上マネジメントについて						
14. 「事前情報」「生活行為の目標」聞き取り						
15. 生活行為向上アセスメント演習シート						
16. 生活行為向上プラン演習シート						
17. 生活行為向上プログラムの実践			生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること			
18. 生活行為向上プログラムの実践			生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること			

19. 生活行為向上プログラムの実践		生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること			
20. 生活行為向上プログラムの実践		生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること			
21. 生活行為向上プログラムの実践		生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること			
22. 終了時アセスメント					
23. 総括及びフィードバック (生活行為向上マネジメント実践報告会)					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	■レポート 50%	□定期試験 %	■その他 30%
	基準等	後半、各シートの記載内容、実践記録内容、報告書内容を評価する。	前半、毎回レポートを課し評価する。		後半、プログラムの実践状況(態度)を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
参考文献	山根寛	「ひとと作業・作業活動 新版」		三輪書店	2017
	(社)日本作業療法士協会	作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント第3版		(社)日本作業療法士協会	2018
	(社)日本作業療法士協会	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント		医歯薬出版	2015
履修要件等	基礎作業分析学演習Ⅰ、「Ⅱ」、「基礎作業分析学実習」が履修済であることが望ましい。				
研究室	1号館1階 第23研究室 (武井)		オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~13:00 (武井)	

科目No.	SOE06-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	作業療法評価学実習		担当教員	谷口 英治 / 作業療法学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	後期(45h)
授業内容の要約	関連施設において身体障害分野、精神障害分野、または高齢期障害分野で評価学実習を実施する					
学修目標 到達目標	1. 対象者やスタッフに対して責任感のある行動・態度を身につけることができる 2. 作業療法士として必要な評価技術を体験し、臨床実践への応用力を培うことができる					
授業形態 授業の進め方	実習にふさわしい服装で臨むこと。特に、ケーシーや実習靴、施設側から指示された服装とする。臨床実習に準じたマナーや社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に気を配ること。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 学内指導 1						
2. 学内指導 2				評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること		
3. 関連施設にて評価実習						
4. 関連施設にて評価実習						
5. 学内指導 (FB) 3						
6. 学内指導 (FB) 4				評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること		
7. 関連施設にて評価実習						
8. 関連施設にて評価実習						
9. 学内指導 (FB) 5						
10. 学内指導 (FB) 6				評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること		
11. 関連施設にて評価実習						
12. 関連施設にて評価実習						
13. 学内指導 (FB) 7						
14. 学内指導 (FB) 8				評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること		
15. 関連施設にて評価実習						
16. 関連施設にて評価実習						
17. 学内指導 (FB) 9						
18. 学内指導 (FB) 10				評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること		
19. OSCE への事前準備				評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること		
20. OSCE の試験						
OSCE の試験						
21. OSCE のFB						
22. プレ実習・OSCE のFB						
23. 総括及びフィードバック (評価学実習全般の総括)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input type="checkbox"/> 定期試験 %
	基準等					<input checked="" type="checkbox"/> その他 100 % 関連施設でのプレ評価実習 (実習評定表、出席日数、実習レポート、実習態度等)、及びOSCEの成績結果から総合的に評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	

		特になし		
参考文献		適宜配布する		
履修要件等	専門基礎科目系、基礎作業療法学系、作業療法評価学系の各科目を履修済みであることが望ましい			
研究室	1号館5階 第18研究室・他	オフィスアワー	各実習担当教員オフィスアワー参照	

科目No.	SOE02-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	身体障害評価学演習Ⅱ		担当教員	武井 麻喜・嶋野 広一・水野 貴子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	前期(30h)
授業内容の要約	身体障害作業療法の臨床現場で実践されている種々の検査のうち、徒手筋力検査法(MMT)をはじめ、神経学的検査測定技術について学修する。					
学修目標 到達目標	1. 代表的な作業療法の検査・測定の目的・意義・実施方法などが理解できる 2. 健常者を対象に各種検査・測定が実施できる 3. 臨床実習で対象者と接する前段階において、実習生としての知識、技術、態度を修得する					
授業形態 授業の進め方	予習に基づく実技を中心に行う。 2年次年度末の「臨床検査測定実習」に直結する内容なので、積極的に取り組むこと。 身軽な服装(学校指定のジャージ上下・Tシャツ・タンクトップ・短パンなど)で実技に臨むこと。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. ガイダンス、片麻痺機能テスト1: 上肢 <評価学 pp283~290>			予習: 教科書(評価学) pp283~290を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
2. 片麻痺機能テスト2: 下肢 <評価学 pp291~292>			予習: 教科書(評価学) pp291~292を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
3. 片麻痺機能テスト3: 手指 <評価学 pp293~295>・筋緊張検査 <ベッドサイド pp35~38>			予習: 教科書(評価学) pp293~295、教科書(ベッドサイド pp35~38)を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
4. 感覚・知覚検査 <評価学 pp114~129、ベッドサイド pp93~103>			予習: 教科書(評価学) pp114~129、教科書(ベッドサイド) pp93~103を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
5. 協調性検査・STEF <評価学 pp160~167、pp204~206>			予習: 教科書(評価学) pp160~167、pp204~206を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
6. 反射・姿勢反射検査 <評価学 pp130~150、ベッドサイド pp67~93>			予習: 教科書(評価学) pp130~150、教科書(ベッドサイド) pp67~93を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
7. MMT1: 目的・意義・判断基準について <評価学 pp104~120> 肩甲帯 <目で見える MMT pp46~66>			予習: 教科書(評価学) pp104~120、教科書(目で見える MMT) pp46~66を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
8. MMT2: 肩関節1 <目で見える MMT pp67~90>			予習: 教科書(目で見える MMT) pp67~90を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			

9. MMT3 : 肩関節 2・肘関節・前腕 <目で見る MMTpp91~113>		予習 : 教科書 (目で見る MMT) pp91~113 を予め読んでおくこと 復習 : 実技の復習をすること						
10. MMT4 : 手関節・手指 <目で見る MMTpp115~137>		予習 : 教科書 (目で見る MMT) pp115~137 を予め読んでおくこと 復習 : 実技の復習をすること						
11. MMT5 : 体幹・股関節 1 <目で見る MMTpp27~43、pp139~155>		予習 : 教科書 (目で見る MMT) pp27~43、 pp139~155 を予め読んでおくこと 復習 : 実技の復習をすること						
12. MMT6 : 股関節 2・膝関節 1 <目で見る MMTpp157~179>		予習 : 教科書 (目で見る MMT) pp157~179 を予め読んでおくこと 復習 : 実技の復習をすること						
13. MMT7 : 膝関節 2・足関節・足部 <目で見る MMTpp181~199>		予習 : 教科書 (目で見る MMT) pp181~199 を予め読んでおくこと 復習 : 実技の復習をすること						
14. 期末テストについて、総復習								
定期試験 (実技試験)								
15. 総括及びフィードバック (実技試験結果の発表と解説)								
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他	%
	基準等					定期試験は実技試験を実施する。詳細な評価基準は授業内で知らせる。		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年		
	岩崎テル子 他	「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第3版」			医学書院	2017		
	田崎義昭 他編	「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」			南山堂	2017		
	佐藤三矢 監修	「新版 目で見る MMT」			医歯薬出版	2017		
参考文献	Hislop 他	「新・徒手筋力検査法 原著第9版」			協同医書出版社	2014		
	青木主税 他	「臨床で役立つ徒手筋力検査法 MMT ナビ」			ラウンドフラット	2017		
	伊藤俊一 監修	「PT・OT のための測定評価 DVD Series 3 MMT—頭部・頸部・上肢 第2版」			三輪書店	2016		
	伊藤俊一 監修	「PT・OT のための測定評価 DVD Series 4 MMT—体幹・下肢 第2版」			三輪書店	2016		
履修要件等	「解剖学」「生理学」「運動学」「身体障害評価学演習 I」を履修していることが望ましい。							
研究室	1号館1階 第23研究室 (武井)			オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~13:00 (武井)			

科目No.	SOE05-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	高次脳機能評価学演習		担当教員	水野 貴子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	前期(30h)
授業内容の要約	脳損傷によって障害されるのは運動や感覚だけではない。記憶や言語、物や空間の認知、目的を持った行動などの高次脳機能も障害され、日常生活に大きな支障をきたす。本講義では、様々な高次脳機能障害について学習し、講義と検査実施と症例を通して、高次脳機能の評価の目的を理解し、日常生活の症状について推測できるようにする。					
学修目標 到達目標	1. 高次脳機能障害について具体的特徴をあげながら説明でき、日常生活を推測できる 2. 評価の目的を理解し、妥当性のある検査を選択できる 3. 検査を適切に実施・解釈でき、呈した日常生活の症状について説明することができる					
授業形態 授業の進め方	講義（講義資料を随時配布、パワーポイント使用）、演習（机上検査の実施、映像による症例検討） 解剖学（脳）を復習しておくこと。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. 高次脳機能障害総論（脳の構造など） （教科書 pp4-5、10-11、27-29、31-37、52-57）			復習：高次脳機能障害の病巣部位を覚える			
2. 注意障害の症状とその評価1【TMTの実施】 （教科書 pp128-132、136-143）			復習：注意障害とTMTの実施方法について覚える			
3. 注意障害の症状とその評価2 【かなひろいテストの実施、症例検討】			復習：かなひろいテストの実施方法について覚える			
4. 半側空間無視などの症状とその評価1 （教科書 pp106-112）			復習：半側空間無視について覚える			
5. 半側空間無視などの症状とその評価2【BITの実施】			復習：BITの実施方法について覚える			
6. 半側空間無視などの症状とその評価3【症例検討】			復習：症例を通じた評価方法について考える			
7. 記憶障害の概念と評価1（教科書 pp119-124）			復習：記憶障害について覚える			
8. 記憶障害の概念と評価2【三宅式記銘力検査の実施】			復習：三宅式記銘力検査の実施方法について覚える			
9. 認知症の症状とその評価1（教科書 pp155-159）			復習：認知症について覚える			
10. 認知症の症状とその評価2【HDS-R、MMSEの実施】			復習：HDS-R、MMSEの実施方法について覚える			
11. 失語症のタイプと症状（教科書 pp69-77）			復習：失語症について覚える			
12. 失行の症状とその評価（教科書 pp81-89）			復習：失行について覚える			
13. 失認の症状とその評価（教科書 pp94-102）			復習：失認について覚える			
14. 脳CT・MRI画像の見方と外傷性脳損傷の特徴 （教科書 pp14-18）			復習：脳CT・MRI画像の見方と外傷性脳損傷の特徴について覚える			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価 方法	項目	■小テスト 10%		■定期試験 90%		
	内容	復習のための小テストを随時実施し、授業の内容についての理解度を評価する。		授業の内容全般についての理解度を評価する。		

教科書	著者	タイトル	出版社	発行
	能登真一	「標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学」	医学書院	2012
参考文献	藤田郁代ほか	「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第2版」	医学書院	2015
	石合純夫	「高次脳機能障害学 第2版」	医歯薬出版	2012
	渕雅子	「作業療法学全書 第8巻 高次脳機能障害」	協同医書出版	2011
	本田哲三	「高次脳機能障害のリハビリテーション ー実践的アプローチ第2版」	医学書院	2010
履修要件等	「形態・機能学解剖領域Ⅰ・Ⅱ」が履修済であることが望ましい。			
研究室	1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~12:50	

科目No.	SOE07-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次			
授業科目名	高齢期障害評価学演習		担当教員	嶋野 広一					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	前期(16h)			
授業内容の要約	高齢者(老年期)をとりまく環境には、医療・保健・福祉・介護がある。高齢化に伴う姿勢や動作、認知及び心理社会的機能はいかなるものか。日常生活活動に影響を及ぼすことが考えられる。高齢期特有の障害について、臨床場面での実例を交えながら基礎知識を学修する。								
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症高齢者に対する作業療法評価の種類と内容を説明することができる。</li> <li>2. 日常生活動作など応用的動作を想定し、根拠を持って説明し、実際に介助することが出来る。</li> <li>3. 姿勢や動作の基礎知識となる解剖や運動生理学用語を適切に用いて表現することができる。</li> </ol>								
授業形態 授業の進め方	高齢者について少しでも理解してもらいたい。教科書に記載されている具体例を参考に臨床場面での実例を交えながら講義を進めていきます。後半は臨床場面で遭遇する介助方法の基本を指導します。実技はジャージで参加して下さい。								
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上				
1. 老年期の作業療法と対象者(「老年期の作業療法」PP13～25)				復習：加齢・老化についてまとめる					
2. 老年期作業療法の実施施設(「老年期の作業療法」PP25～48)				復習：老年期作業療法の実施場所についてまとめる					
3. 作業療法評価と目標設定、介入(「老年期の作業療法」PP83～115)				復習：老年期作業療法の評価についてまとめる					
4. 作業療法におけるリスク管理等(「老年期の作業療法」PP181～193)				復習：高齢者のリスク管理についてまとめる					
5. 高齢者と周辺との理解と連携(「老年期の作業療法」PP209～PP221)				復習：高齢者と家族との重要性についてまとめる					
6. 実技①				復習：介助方法(起き上がり・立ち上がり)の修得					
7. 実技②				復習：介助方法(移乗)の修得					
定期試験(期末レポート)									
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)									
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input checked="" type="checkbox"/> レポート	20%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験	80%	<input type="checkbox"/> その他	%
	基準等			高齢者についてのレポートを課す		授業内容全般の理解度を評価する			
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年			
	鎌倉矩子 他	「老年期の作業療法」第3版 改訂版			三輪書店	2018			
参考文献	特に指定しない								
履修要件等									
研究室	1号館2階 第24研究室			オフィスアワー	毎週水曜日 10:40～12:10				

科目No.	SOE08-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次	
授業科目名	発達障害評価学演習		担当教員	山田 剛			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	前期(30h)	
授業内容の要約	発達過程に障害のある子供たちの疾病についての知識を深めるとともに、作業療法プログラムの立案に必要な評価を行うことができる。						
学修目標 到達目標	1. 発達障害の子供たちの関わりに必要な基礎的知識を学習する 2. 疾病の特徴を学ぶとともに必要な評価方法を学習する 3. 評価結果から問題点を抽出することができる						
授業形態 授業の進め方	講義を中心に進めます。ノートをきちんととってください。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 発達期障害領域の治療の特徴			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
2. 養育者とのかかわり方について			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
3. 発達期障害の治療の流れ			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
4. 解釈と統合についての理解1			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
5. 評価1 スクリーニング、発達検査			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
6. 評価2 観察の重要性について 外見上見える評価			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
7. 評価3 認知機能 外見上見えないことに対する評価			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
8. ビデオを中心としたグループワーク			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
9. グループワーク			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
10. 脳性麻痺を中心とした作業療法の基礎			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
11. 脳性麻痺を中心とした作業療法の基礎2			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
12. 筋ジストロフィー症を中心とした作業療法の基礎			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
13. 広汎性発達障害を中心とした作業療法の基礎			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
14. その他の疾患への関わり			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
定期試験(期末レポート)							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等					成績は定期試験のみで評価します。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年		
	上杉 雅之(監修), 辛島 千恵子(編集)	「イラストでわかる発達障害の作業療法」		医歯薬出版	2016		
参考文献	特に指定しない						
履修要件等							
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける			

科目No.	SOE04-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次	
授業科目名	精神障害臨床評価学実習		担当教員	生水 智子			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	前期(45h)	
授業内容の要約	精神障害を持つ対象者を支援するために必要な評価法について専門的に学び、対象者を総合的に評価するための知識及び技能を習得する。また検者・被検者体験を通して、医療従事者として望ましい態度を習得する。						
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神科作業療法評価の基本的なプロセスを理解し、実施することができる</li> <li>2. 対象となる人や疾患と障害、及び環境や目的に応じて適切な評価法を選択できる</li> <li>3. 評価した結果について、第三者に適切に説明することができる</li> <li>4. 検者・被検者体験を通して、自己を客観的に理解し、医療従事者として望ましい態度をとることができる</li> </ol>						
授業形態 授業の進め方	・教科書および配布資料を用いて講義および演習を行う。演習では検査者および被験者を体験し、互いに意見交換することで自己を客観的に知る機会とする。また小グループで、症例を用いたアクティブラーニングを行う。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 精神障害領域の評価の復習			予習：「精神障害評価学」の復習をしておく				
2. 観察技法			予習：教科書②p478～482を読んでおく				
3. 面接技法①			予習：教科書①p173～186を読み直す				
4. 面接技法②			同上				
5. 検査・測定①COPM・興味関心チェックシート			予習：教科書②p43～46を読んでおく				
6. 検査・測定②精神作業検査（クレペリン検査）			予習：教科書②p638～646を読んでおく				
7. 検査・測定③一般職業適性検査			同上				
8. 検査・測定④一般職業適性検査			同上				
9. 検査・測定⑤構成的作業（箱作り法）			予習：教科書②p496～497,490を読んでおく				
10. 検査・測定⑥構成的作業（箱作り法）			同上				
11. 検査・測定⑦UBOM			予習：教科書②p512～513を読んでおく				
12. 検査・測定⑧UBOM			同上				
13. 集団プログラムの評価①ゲートボール			予習：教科書①p122～133を読んでおく				
14. 集団プログラムの評価②ゲートボール			同上				
15. ICFを用いた評価の整理			予習：教科書①p17 表1-3-3を熟読しておく				
16. 評価計画			予習：教科書②p468～473を読んでおく				
17. 事例を用いた評価の演習①			予習：事前配布する事例を読んでおく				
18. 事例を用いた評価の演習②			同上				
19. 臨床実習における評価計画			復習：プログラムを想定して計画する				
20. 臨床実習における評価の実際			同上				
21. 精神障害領域における評価のまとめ			予習：全範囲について復習しておく				
22. 当事者からみた「精神障害」			予習：事前配布資料を読んでおく				
定期試験（期末レポート）							
23. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	10%	■定期試験	80%
	基準等			授業時間中に課題を課し、指定期限内に提出		講義（資料含む）・演習内容の範囲で出題する	授業に臨む姿勢、積極性などを総合的に判断する

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	山根 寛	「精神障害と作業療法 新版」	三輪書店	2017
	能登 真一他	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」	医学書院	2017
参考文献				
履修要件等	精神障害評価学（1年次後期科目）を履修していることが望ましい			
研究室	1号館1階 第22研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:15 ~ 13:00	

※教科書①：山根 寛「精神障害と作業療法 新版」

教科所②：能登 真一他：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」

科目No.	SOT02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	生活環境・行為分析学		担当教員	石川 健二		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	前期(30h)
授業内容の要約	様々な動作・行為から成り立つ日常生活自立にむけた支援策を理解する。また、動作制限がある場合その原因を探り、可能性のある機能障害を推論し、特定するための知識手法を身につける。					
学修目標 到達目標	1. 行為の概念を理解し構成要素を抽出することができる 2. 行為を分析するなかで心身機能との関連をみつけたすことができる 3. 生活行為の視点で-テクニカルエイドの選び方使い方ができる 4. 住宅の状況や用具の使用といった環境因子の影響を予測することができる					
授業形態 授業の進め方	講義、演習、グループワーク課題 等により、座学と実技の双方により理解を深める。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 生活行為のみかた①ADL基礎 作業療法の本質 生活行為動作シークエンス 構成要素 p 4-28			予習として授業計画に記載している教科書の次回予定頁の読了を求めます			
2. " ②ADLの評価 p 29-47			教科書の読了 /構成要素のプリント課題			
3. " ③ ADLの治療理論 p 48-61			予習として授業計画に記載している教科書の次回予定頁の読了を求めます。 毎時間小テストを実施するので、前回授業範囲の復習をしておくこと。			
4. 基本的日常生活動作の構成要素①起居動作 p 62-82						
5. " ②食事動作 p 83~103						
6. " ③整容動作 p 104-120						
7. " ④更衣動作 p 121-138						
8. " ⑤排泄動作 p 139-157						
9. " ⑥入浴動作 p 158-170						
10. " ⑦睡眠・栄養・炊事 p 171-194						
11. " ⑧掃除・買い物・経済管理 p 195-227						
12. 生活を援助する工夫 (石川) (資料)			ADL室にて自助具を調べておく			
13. 福祉用具の種類と使い方 p 292~300			学内トイレを参考に改修の工夫を考えておく			
14. 生活環境の概念と改修の考え方 p 301~306			試験勉強			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	■レポート 30%	■定期試験 40%	■その他 %	
	基準等	前回講義分の小テストを毎講義前に実施する。	第14回に住環境に関するレポートを課す	筆記試験を課す。レポート、授業態度など総合的に判定する。	教科書①は授業に必須なので準備しておく。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	濱口豊太	① 「日常生活活動・社会生活行為学」		医学書院	2014	
	編集委員会	② 作業療法ジャーナル増刊号(保存版) -テクニカルエイド生活視点で役立つ選び方使い方		三輪書店	2014	
参考文献	授業内で配布した参考資料					
履修要件等	生活環境・行為学が履修済であることが望ましい					
研究室	3号館2階 第28研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 14:40~16:10		

科目No.	SOT03-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次	
授業科目名	生活環境・行為分析学実習		担当教員	南 征吾			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	後期(30h)	
授業内容の要約	日常生活の意義と役割を知り、対象者への日常生活を支援技術について学ぶ。						
学修目標 到達目標	1. 生活環境・行為に関する基本的な知識を整理し、対象者の日常生活についての支援を学ぶ。 2. 生活環境・行為の各動作の援助技術について理解を深める。						
授業形態 授業の進め方	基本動作や介助技術について身につけることを目指す。普段の生活から生活環境と行為を分析する視点をもっておくこと。また、動作分析を促すために学生同士でグループワークを取り入れて学ぶ。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. オリエンテーション							
2. 動作分析の基礎(支持基底面など)			復習:生活行為の分析の基礎を理解する				
3. 動作分析の基礎(重心線や重心など)			復習:生活行為の分析の基礎を理解する				
4. 生活行為の問題点と援助			復習:生活行為の問題点と援助を整理する				
5. 生活行為の評価			復習:生活行為の必要な評価を整理する				
6. 動作分析の基礎(例:更衣動作)			復習:生活行為の複合的に整理する				
7. 食事動作(分析とグループワーク)			復習:食事動作の分析する基礎を整理する				
8. 食事動作(発表とまとめ)			復習:食事動作の分析を理解する				
9. 更衣動作(分析とグループワーク)			復習:更衣動作の分析する基礎を整理する				
10. 更衣動作(発表とまとめ)			復習:更衣動作の分析を理解する				
11. トイレ動作(分析とグループワーク)			復習:トイレ動作の分析する基礎を整理する				
12. トイレ動作(発表とまとめ)			復習:トイレ動作の分析を理解する				
13. 生活行為のまとめ			復習:生活行為の分析を整理する				
14. 疾患別の生活行為のまとめ			復習:疾患別の生活行為の分析を整理する				
定期試験(期末レポート)							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input checked="" type="checkbox"/> レポート	30%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験	60%
	基準等			各授業に関するレポートがあり、提出物の内容を評価する。		定期試験は筆記試験で実施する。	
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年
	特に指定しない						
参考文献	齊藤宏、矢谷令子、丸山仁司	姿勢と動作 第3版			メディカルフレンド社		2010
	酒井ひとみ(編集)	作業療法技術学3日常生活活動			協同医書出版		2009
履修要件等							
研究室	3号館2階 第25研究室			オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00		

科目No.	SCP04-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床ゼミⅡ (OT)		担当教員	南 征吾・嶋野 広一・高野 珠栄子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必修	1単位	前期(30h)
授業内容の要約	医療従事者としての基本的態度を習得することができる。また、臨床見学実習で得られた自己課題を理解し、その課題を解決するための具体的な取り組み方を考え、実行する。					
学修目標 到達目標	1. 自己の課題を解決するための方法論を見つけ、実行できる 2. 自分の考えを言葉にし、相手に伝えることができる 2. 作業療法評価学実習(プレ実習)に向けた準備ができる					
授業形態 授業の進め方	講義、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション			臨床見学実習の振り返り、自己課題の整理			
2. レクリエーション(体育祭の準備)			学生間連携、話し合い			
3. スポーツ活動(体育祭)を通じた学生間連携・チームワーク			同上			
4. 専門基礎科目(解剖学など)の復習1(小テストの実施)			復習			
5. G:脈拍・血圧測定(1/2グループ)、移乗の方法(1/2グループ)			復習			
6. G:脈拍・血圧測定(1/2グループ)、移乗の方法(1/2グループ)			復習			
7. G:グループワーク:初回面接			復習			
8. G:グループワーク:ROM			該当科目の復習			
9. 専門基礎科目(解剖学など)の復習2(小テストの実施)			復習			
10. G:グループワーク:MMT			該当科目の復習			
11. コミュニケーションの取り方1			復習			
12. コミュニケーションの取り方2			復習			
13. プレ実習のガイダンス1			同上			
14. プレ実習のガイダンス2			同上			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■小テスト 40%	■課題・レポート 40%	□定期試験 %	■その他 20%	
	基準等	授業内での小テスト実施	課題の取り組み		授業への取り組み	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	特に指定しない					
参考文献	作業療法学専攻:実習の手引き 第4版					
	飛松好子 編著	新イラストによる安全な動作介助の手引き		医歯薬出版	2016	
履修要件等	「臨床実習指導Ⅰ」の履修済みであること					
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員オフィスアワー		

科目No.	SCP05-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅱ (OT)		担当教員	南 征吾・嶋野 広一・高野 珠栄子		
基本項目	専攻	科目区分		履修期間		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必修	1単位	後期(30h)
授業内容の要約	生活をイメージし、疾患・症状に対応し、優先度やリスクを配慮した評価計画を立案し、適切に評価を行うことができる。					
学修目標 到達目標	1. 対象者の状態に合わせた評価が適切に行うことができる 2. 臨床における記録を書くことができる 3. 臨床検査・測定実習に向けて、知識・技術を自発的に習得しようと努めることができる					
授業形態 授業の進め方	講義、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション						
2. 評価計画の書き方1			復習			
3. 評価計画の書き方2			同上			
4. SOAPとプロセスレコードの書き方1			復習			
5. SOAPとプロセスレコードの書き方2			同上			
6. 症例報告書の書き方1			復習			
7. 症例報告書の書き方2			同上			
8. レジュメの書き方			復習			
9. 臨床検査・測定実習前準備1			復習			
10. 臨床検査・測定実習前準備2			同上			
11. OSCEのガイダンス1			復習			
12. 人体解剖学実習見学(オリエンテーション)1			復習			
13. OSCEのガイダンス2			復習			
14. 人体解剖学実習見学2			復習			
定期試験(期末レポート)						
15. 臨床検査・測定実習前準備3			復習			
成績評価方法	項目	□小テスト %	■課題・レポート 20 %	□定期試験 %	■その他 80 %	
	基準等		課題の提出をみる		適宜、小テストや課題を入れ達成度を見る	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	「大阪河崎リハビリテーション大学 作業療法学専攻：実習の手引き 第3版」					
参考文献	特に指定しない					
履修要件等	「臨床ゼミⅡ」が履修済みであることが望ましい。					
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員オフィスアワー		

科目No.	SCP06-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次			
授業科目名	臨床検査・測定実習 (OT)		担当教員	谷口 英治 / 作業療法学専攻教員					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	作業療法学	臨床実習		必修	3単位	後期(135h) 3週間			
授業内容の要約	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野の施設にて実習を実施する。</li> <li>・臨床の場で対象者(児)の評価法を修得し、作業療法士としての基本的な態度を学ぶ。</li> </ul>								
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法及び作業療法士の機能と役割を理解することができる</li> <li>2. 臨床場面で、対象者(児)の評価及び治療計画の立案を指導者のもとで実施し、理論と技術の修得と理解を深めることができる</li> <li>3. 専門職としての認識を高めることができる</li> </ol>								
授業形態 授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習にふさわしい服装で臨むこと</li> <li>・一般社会常識、マナー、そして社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に配慮すること</li> <li>・連絡・相談・報告や自己管理に十分注意を払うこと</li> </ul>								
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野の施設で3週間の臨床実習を実施する。</li> <li>・対象者(児)の評価(情報収集、面接、観察、検査測定調査)を実施する</li> <li>・収集した情報を基に問題点を抽出する(治療計画の立案は含まない)</li> </ul>			評価知識を修め、検査測定に関する技術を繰り返し実技練習しておくこと						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input type="checkbox"/> 定期試験	%	<input checked="" type="checkbox"/> その他	100%
	基準等					<ol style="list-style-type: none"> <li>① 臨床検査測定実習評定の結果</li> <li>② 臨床実習出席日数</li> <li>③ 実習内容(症例報告書、実習ノート・実習態度等)</li> <li>④ セミナーの参加状況から総合的に評価する</li> </ol>			
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年		
	臨床実習委員会編	「作業療法学専攻：実習の手引き」 第4版			大阪河崎リハビリテーション大学		2017		
参考文献	必要に応じて紹介する								
履修要件等	実習要件2)を満たしていること								
研究室	各実習担当教員研究室			オフィスアワー	各実習担当教員 オフィスアワー参照				

科目No.	FCM10-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	耳鼻咽喉科学		担当教員	【耳鼻】 裕田 猛真・中原 啓 【咽喉】 森 一功		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必修	1単位	後期(30h)
授業内容の要約	【耳鼻】 聴器疾患・鼻副鼻腔疾患について理解を深める。 【咽喉】 口腔咽喉の解剖と生理について説明し、その疾患について、その診断と治療を解説する。					
学修目標 到達目標	【耳鼻】 1.) 聴覚疾患につき深い知識を習得する 2.) 鼻副鼻腔の解剖、生理、疾患についての知識を習得する 【咽喉】 1.) 口腔咽喉の解剖・生理を説明できる 2.) その個々の疾患の病態、検査、診断、治療を述べることができる					
授業形態 授業の進め方	【耳鼻】 スライドによる講義形式で行う。 【咽喉】 パワーポイントによるスライド授業をおこなう。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 内耳疾患			左記授業後、復習をする			
2. 中耳疾患						
3. 法規など						
4. 鼻副鼻腔の解剖・生理						
5. 鼻副鼻腔疾患						
6. 画像診断・救急疾患等						
7. 吃音・機能性疾患						
8. 口腔咽喉科学 総論 解剖・生理			講義の配付資料を今一度、読み直すこと。			
9. 口腔咽喉科学 各論(1) 咽頭・良性疾患			(同上)			
10. 口腔咽喉科学 各論(2) 口腔・良性疾患			(同上)			
11. 口腔咽喉科学 各論(3) 咽頭・悪性疾患			(同上)			
12. 口腔咽喉科学 各論(4) 口腔・悪性疾患			(同上)			
13. 口腔咽喉科学 各論(5) 唾液腺疾患			(同上)			
14. 気管食道科学 各論(5) 気管疾患、食道疾患			(同上)			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 50%	■定期試験 50%	□その他 %	
	基準等	【咽喉】 レポート試験のみによって評価する。		【耳鼻】 授業の内容全般についての理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	鳥山稔、田内光	言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学		医学書院		
参考文献	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM06-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	臨床歯科学		担当教員	高阪 貴之			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必修	1単位	後期(16h)	
授業内容の要約	歯および口腔の機能を正常に保持することは、全身の健康維持にかかせない。本講義では、歯および歯周組織の構造、機能、口腔ケア等について学習する。						
学修目標 到達目標	1. 歯および歯周組織について説明することができる 2. 歯および歯周組織と全身との関連性を説明することができる 3. 適切な口腔ケアの実施ができる						
授業形態 授業の進め方	まず、歯牙・歯周組織の解剖学的特性を学んでもらう。 それを踏まえた上で、その管理の仕方や治療法を理解してもらおう。 口腔ケアに関しては、具体的手法についても言及する。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 歯科医学の歴史と重要性 (教科書 pp2~6)			教科書を読んで予習・復習すること				
2. 歯・歯周組織の発生 (教科書 pp32~33)			教科書を読んで予習・復習すること				
3. 歯・歯周組織の構造 (教科書 pp13~18)			教科書を読んで予習・復習すること				
4. 歯・歯周組織の機能 (教科書 pp13~18)			教科書を読んで予習・復習すること				
5. 歯・歯周組織の疾患 (教科書 pp36~62)			教科書を読んで予習・復習すること				
6. 歯・歯周組織の治療 (教科書 pp36~62)			教科書を読んで予習・復習すること				
7. 口腔ケアに関する予防 (教科書 pp239~247)			教科書を読んで予習・復習すること				
8. 口腔ケアに関する疾患の治療 (教科書 pp239~247)			教科書を読んで予習・復習すること				
定期試験 (期末レポート)							
9. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等					定期試験のみで成績を評価します。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年	
	夏目 長門	「言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科」		医学書院		2012	
参考文献	特に指定しない						
履修要件等							
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。			

科目No.	FCM07-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	口腔外科学		担当教員	小谷 泰子 ・ 村上 和裕		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必修	1単位	後期(16h)
授業内容の要約	本講義では、咀嚼・嚥下を中心とする口腔機能の正常と異常について解説し、加齢や口腔中咽頭癌、脳血管障害、口唇口蓋裂などによって生じる機能障害とその評価法、言語聴覚士の参画が期待される摂食・嚥下リハビリテーションの現状と将来的な展望について示す。特にその中で、歯科・口腔外科領域と言語聴覚士の連携について詳説する。					
学修目標 到達目標	1. 正常な咀嚼・嚥下運動のメカニズムと健康における意義について理解する 2. 口腔中咽頭癌における嚥下障害の病態・治療法について理解する 3. 摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科医師と言語聴覚士との連携について理解する					
授業形態 授業の進め方	講義形式を中心とし、症例を教材にした討論を加える。 受講者は積極的に討論に参加し、詳細なノートを作成すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
村上 和裕 担当分						
1. 咀嚼機能のメカニズムと脳・全身への影響			左記授業後、復習する。			
2. 咀嚼・嚥下における舌のはたらき						
3. 嚥下障害① 口腔中咽頭癌による咀嚼・嚥下障害						
4. 嚥下障害② 言語聴覚士と歯科医師の連携						
小谷 泰子 担当分						
5. 口蓋裂と鼻咽腔閉鎖不全			左記授業後、復習する。			
6. 嚥下障害③ 在宅症例での取り組み、チームアプローチについて						
7. 嚥下障害④ 嚥下内視鏡とは						
8. 口腔機能の障害(ドライマウス・睡眠時無呼吸など)						
定期試験(期末レポート)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 15%	■定期試験 80%	■その他 5%	
	基準等		提出物で評価する。	定期試験にて、授業の理解度を評価する。	授業への参加度で評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	道健一	「言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学」			医歯薬出版	
	溝尻源太郎 熊倉勇美	「口腔・中咽頭がんのリハビリテーション 構音障害、摂食・嚥下障害」			医歯薬出版	
参考文献	前田芳信 阪井丘芳	「摂食・嚥下機能改善と装置の作り方 超入門」			クインテッセンス出版	
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FPS02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	生涯発達心理学		担当教員	木村 秀生			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	心理学		必修	2単位	前期(45h)	
授業内容の要約	乳幼児期から老年期までの生涯に渡る発達の経緯と発達心理学の理論について講義する。						
学修目標 到達目標	1. 乳幼児期から老年期までの各時期の特徴について、生涯発達の視点から整理し、発達心理学の基本的知識を習得する。 2. 生涯発達心理学の知識を、言語聴覚療法の臨床場面での援助に活用する視点や方法を知る。						
授業形態 授業の進め方	生涯発達心理学の理論の紹介や実践への応用の可能性について、学生間のディスカッションやプレゼンテーションも交えながら講義を進める。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 生涯発達心理学の基本的視点			講義内容を復習しノートにまとめる				
2. 新生児期の特徴と発達課題			講義内容を復習しノートにまとめる				
3. 乳児期の特徴と発達課題			講義内容を復習しノートにまとめる				
4. 幼児期前半の特徴と発達課題			講義内容を復習しノートにまとめる				
5. 幼児期後半の特徴と発達課題			講義内容を復習しノートにまとめる				
6. 児童期の特徴と発達課題			講義内容を復習しノートにまとめる				
7. 児童期の特徴と発達課題			講義内容を復習しノートにまとめる				
8. 成人期の特徴と発達課題			講義内容を復習しノートにまとめる				
9. 老年期の特徴と発達課題			講義内容を復習しノートにまとめる				
10. Erikson の発達理論について			講義内容を復習しノートにまとめる				
11. Vigotsky の発達理論について			講義内容を復習しノートにまとめる				
12. Piaget の発達理論について			講義内容を復習しノートにまとめる				
13. Piaget の発達理論について			講義内容を復習しノートにまとめる				
14. Wallon の発達理論について			講義内容を復習しノートにまとめる				
15. Gesell の発達理論について			講義内容を復習しノートにまとめる				
16. bowlby の発達理論について			講義内容を復習しノートにまとめる				
17. その他の発達心理学者の理論			講義内容を復習しノートにまとめる				
18. その他の発達心理学者の理論			講義内容を復習しノートにまとめる				
19. その他の発達心理学者の理論			講義内容を復習しノートにまとめる				
20. その他の発達心理学者の理論			講義内容を復習しノートにまとめる				
21. その他の発達心理学者の理論			講義内容を復習しノートにまとめる				
22. その他の発達心理学者の理論			講義内容を復習しノートにまとめる				
定期試験(期末レポート)							
23. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)			講義内容の復習				
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等					講義中に配布する資料の内容から出題する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	無し						

参考文献	二宮克美 ほか	「ガイドライン生涯発達心理学」	ナカニシヤ出版	2012
履修要件等	「心理学」が履修済みであることが望ましい。			
研究室	1号館5階 第16研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 14:40~16:10	

科目No.	FSL02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	言語学		担当教員	新田 香織		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必修	2単位	前期(60h)
授業内容の要約	「言語」に含まれる幅広い知識について概観する。「音」「単語」「文」から「文化」「社会」へと目を広い世界に広げつつ解説する。音声学、形態論、統語論、語用論などをカバーし、後半は学んだ理論を言語聴覚士としての実践に結びつけ、グループ発表を中心として行う。					
学修目標 到達目標	1. 言語学のそれぞれの分野についての理解ができる 2. 言語学で学んだ知識と現場での事象との関連付けができる 3. 言語学の知識と言語聴覚士としての将来の実践に向けての応用ができる					
授業形態 授業の進め方	講義とワークショップスタイルのバランスを取りながら理解を深められるように工夫する。毎回小テストとグループディスカッションがあるので、予習・復習をしっかりとすること。興味のあるトピックの情報収集を積極的に行うこと。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 言語学とは？			予習：プリント			
2. 音声学(1) 第1,2講			復習：英語と日本語の音素			
3. 音声学(2) 第3,4,5講			予習：プリント			
4. 音韻論 第6,7,8講			復習：調音方法と調音点、音素と異音			
5. 形態論(1) 第9,10講			予習：プリント			
6. 形態論(2) 第10講			復習：音素と形態素			
7. 形態論(3) 第11講			予習：プリント			
8. 統語論(1) 第12,13講			復習：異形態、語形成			
9. 復習セッション(1)			予習：プリント			
10. 統語論(2) 第14講			復習：品詞、ツリーダイアグラム			
11. 統語論(3) 第15,16講			予習：プリント			
12. 意味論(1) 第17講			復習：モダリティ、アスペクト、意味役割			
13. 意味論(2)・語用論(1) 第18,19講			予習：プリント			
14. 語用論(2) 第20講			復習：意味論と語用論の違い			
15. 復習セッション(2)			予習：プリント			
16. 中間テスト			復習：テスト内容の振り返り			
17. 前半のリフレクション・プレゼンテーション準部			予習：プリント			
18. 社会言語学など 第21,22,23講			復習：教科書全体の復習			
19. プレゼンテーション準備			予習：発表準備			
20. 国家試験対策(1)			復習：授業で扱った問題の復習			
21. 発表(1)			予習：プリント			
22. 発表(2)			復習：授業で扱った問題の復習			
23. 国家試験対策(2)			予習：プリント			
24. 国家試験対策(3)			復習：授業で扱った問題の復習			
25. 国家試験対策(4)			予習：プリント			
26. プレゼンテーション評価と振り返り			復習：教科書・プリント総復習			
27. 記述式試験問題			予習：			
28. 記述式問題振り返り			復習：教科書・プリント総復習			
29. 定期試験(期末レポート)						
29. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)(1)						
30. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)(2)						

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 35 %	□レポート %	■定期試験 40 %	■その他 25 %
	基準等	毎週の予習（プリントの空欄に記入）、毎週の小テスト、中間テスト。60%以上の習得率。		記述式期末問題とマーク式期末試験の2種類あり。平均して60%以上の正答率。	プレゼンテーションの準備、グループ活動、プレゼンテーション本番を評価。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	佐久間ほか	「言語学入門 これから始める人のための入門書」		研究社	2004
参考文献	斉藤純男	言語学入門		三省堂	2010
履修要件等	特になし。（音声学の単位を取得しておくことが望ましい。）				
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FSL03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	言語発達学		担当教員	高橋 泰子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必修	1単位	前期(30h)
授業内容の要約	定型発達児が音声言語の何を(what)、どのように(how)獲得していくかを説明する。 また、書字言語の読字と書字を習得するプロセスやそれを支える諸機能について説明する。					
学修目標 到達目標	1. 日本語の特徴が説明できる 2. 言語発達を音韻論・意味論・統語論・語用論の側面から分析・評価できる 3. さまざまな言語獲得理論が説明できる 4. 音声言語および書字言語の発達段階が説明できる					
授業形態 授業の進め方	「〇歳になると〇〇ができる」といった機械的な記憶をするのではなく、発達の連続的プロセスを言語的側面から講義していく。講義は、配布するプリントと教科書を用いるので、指定された予習と復習をしておくこと。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 導入一言語発達研究の特徴			2~5 ページの復習、32~39 ページの予習			
2. 何を(what)獲得するのかー音韻論的側面			本講義の復習、32~39 ページの予習			
3. 何を(what)獲得するのかー音韻論的側面			本講義の復習、36~39 ページの予習			
4. 何を(what)獲得するのかー意味論的側面			本講義の復習、40~41 ページの予習			
5. 何を(what)獲得するのかー意味論的側面			本講義の復習、42~45 ページの予習			
6. 何を(what)獲得するのかー統語論的側面			本講義の復習、46~49 ページの予習			
7. 何を(what)獲得するのかー語用論的側面			50~57 ページの予習・復習			
8. 何を(what)獲得するのかー語用論的側面			50~57 ページの復習			
9. どのように(how)獲得するのかー理論の変遷			6~9 ページの予習・復習			
10. どのように(how)獲得するのかー理論の変遷			6~9 ページの復習			
11. 読字の発達			58~61 ページの予習・復習			
12. 書字の発達			58~61 ページの復習			
13. 読字・書字を支える諸機能の発達			本講義の復習			
14. 脳の機能と言語の関係			本講義の復習、過去の国家試験問題を解く			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 90 %	■その他 10%	
	基準等			授業内容についての理解度を評価する。	授業中に予習・復習の状況を口頭にて質疑応答し理解度を評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	岩立志津夫・小椋たみ子編	「よくわかる言語発達」		ミネルヴァ書房	2005	
参考文献	小林春美・佐々木正人編	「新・子どもたちの言語獲得」		大修館書店	2008	
履修要件等	「生涯発達心理学」「言語学」が履修済みであることが望ましい。					
研究室	1号館5階 第17研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 10:40~12:10		

科目No.	FSL07-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	聴覚心理学		担当教員	馬屋原 邦博			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必修	1単位	前期(30h)	
授業内容の要約	聴覚検査や聴覚障害者の聞こえを理解するために必要な聴覚心理学の基本的知識について学習し、音や音声の聞こえについて体験を通して理解を深める。						
学修目標 到達目標	1. 音の大きさ・高さ・音色など音の心理的性質が理解できる 2. 音や音声について、聴覚障害者の聞こえかたの特徴が理解できる						
授業形態 授業の進め方	講義および実際の音のデモンストレーションなどを行いながら学習を進める。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 音の性質(教科書p.32~35)			復習:授業の範囲をまとめる				
2. 音の大きさ①(教科書p.35~38)			復習:授業の範囲をまとめる				
3. 音の大きさ②(教科書p.35~38)			復習:授業の範囲をまとめる				
4. 騒音計の使い方			復習:授業の範囲をまとめる				
5. 音の高さ①(教科書p.38~39)			復習:授業の範囲をまとめる				
6. 音の高さ②(教科書p.38~39)			復習:授業の範囲をまとめる				
7. マスキングと臨界帯域(教科書p.39~40)			復習:授業の範囲をまとめる				
8. 音色とスペクトル(教科書p.41~42)			復習:授業の範囲をまとめる				
9. 短音の知覚(教科書p.40~41)			復習:授業の範囲をまとめる				
10. 時間分解能と周波数選択性			復習:授業の範囲をまとめる				
11. 両耳聴と音源定位(教科書p.42)			復習:授業の範囲をまとめる				
12. 音声の知覚(教科書p.42~44)			復習:授業の範囲をまとめる				
13. 視覚と聴覚の相互作用			復習:授業の範囲をまとめる				
14. 生活環境の中の音			復習:授業の範囲をまとめる				
定期試験							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等					筆記試験により授業内容全般についての理解を評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	中村ら(編)	「聴覚障害学 第2版」			医学書院	2015	
参考文献	B.C.J.ムーア	「聴覚心理学概論」			誠信書房	1994	
	吉田 友敬	「言語聴覚士の音響学入門」			海文堂出版	2005	
	今泉 敏	「言語聴覚士のための音響学」			医歯薬出版	2007	
	青木 直史	「ゼロからはじめる音響学」			講談社	2014	
履修要件等							
研究室	1号館5階 第19研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00			

科目No.	FSL05-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次			
授業科目名	音声言語聴覚医学 I		担当教員	森 一功					
基本項目	専攻	科目区分		単位数	履修期間				
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必修	1単位	前期(30h)			
授業内容の要約	語聴覚士として臨床で担当することになる、音声、言語、嚥下について講義をおこなう。これらに關与している器官の解剖と生理について説明し、その検査法、病態、治療法について解説する。講義にあたっては、視覚材料や音声材料を多用する。ヒト摘出喉頭の観察も行う。								
学修目標 到達目標	1. QOLに直結する発声、構音、嚥下に関与する器官の解剖・生理を説明できる 2. 発声、構音、嚥下を障害する疾病、その治療法を述べることができる								
授業形態 授業の進め方	パワーポイントによるスライド授業をおこなう。実際の臨床での咽喉頭内視鏡ビデオや手術ビデオを見たり、ヒト摘出喉頭を実際に触ったりする。臨床で遭遇することはきわめてマレと思われるような症例(小生が2回しか診たことがない、とか)のビデオも多々あるので、見逃さないように。								
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上				
1. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 総論				講義の配付資料を今一度、読み直すこと。					
2. 頭頸部外科学 各論 頭頸部癌の一般論、放射線治療、再建外科				(同上)					
3. 喉頭科学 総論(1) 喉頭の解剖、生理、ヒト摘出喉頭の観察実習				(同上)					
4. 喉頭科学 総論(2) 発声のメカニズムの詳細				(同上)					
5. 喉頭科学 総論(3) 声の検査				(同上)					
6. 喉頭科学 各論(1) 喉頭の良性疾患(1) 炎症、良性腫瘍				(同上)					
7. 喉頭科学 各論(2) 喉頭の良性疾患(2) 声帯麻痺、異物、外傷、先天異常				(同上)					
8. 喉頭科学 各論(3) 喉頭の悪性疾患				(同上)					
9. 喉頭科学 各論(4) まれな発声障害、音声治療、性同一性障害の音声				(同上)					
10. 言語医学 総論 構音に関する臨床解剖、構音のメカニズム				(同上)					
11. 言語医学 各論 器質性構音障害をきたす疾患				(同上)					
12. 気管食道科学 各論(1) 嚥下(1) 嚥下のメカニズム				(同上)					
13. 気管食道科学 各論(2) 嚥下(2) 誤嚥をきたす疾患				(同上)					
14. 気管食道科学 各論(3) 嚥下(3) 誤嚥の治療法、耳鼻咽喉科疾患と誤嚥				(同上)					
定期試験(期末レポート)									
15. 気管食道科学 各論(4) 気道異物、食道異物、気管切開				(同上)					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	100%	□定期試験	%	□その他	%
	基準等	授業の内容についての理解度を評価する。							
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年				
	特に指定しない								
参考文献	岩田 ほか	「臨床神経学・高次脳機能障害学」		医学書院	2006				
履修要件等									
研究室	1号館1階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。				

科目No.	FSL06-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	音声言語聴覚医学Ⅱ		担当教員	碓田 猛真・中原 啓			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必修	1単位	前期(30h)	
授業内容の要約	聴器、平衡覚器官の構造、生理を理解し、聴覚障害を伴う疾患について理解を深める。						
学修目標 到達目標	1. 言語聴覚士として必要な解剖、生理、疾患について幅広い知識を正確に習得する 2. 正しい解剖学的知識より疾患を論理立てて理解する 3. 医療現場における言語聴覚士の役割を理解する						
授業形態 授業の進め方	スライドによる講義と質疑応答 一つの事柄を関連付けて説明していく。臨床現場での必要事項をできるだけ盛り込む						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 外耳、中耳、顔面神経の解剖、生理			左記授業後、復習をする				
2. 内耳の解剖・生理							
3. 聴覚生理(1)							
4. 聴力検査							
5. 中耳疾患							
6. 聴覚生理(2)							
7. 前庭生理							
8. めまいの検査							
9. 補聴器(1)							
10. 補聴器(2)							
11. 内耳疾患(聴覚系)							
12. 内耳疾患(前庭系)							
13. 人工内耳							
14. 幼児難聴							
定期試験(期末レポート)							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					授業の内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年		
	鳥山稔、田内光	言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学		医学書院			
参考文献	特に指定しない						
履修要件等							
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。			

科目No.	SHB01-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	失語・高次脳機能障害学 I		担当教員	芦塚 あおい		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	高次脳機能障害学		必修	2単位	後期(60h)
授業内容の要約	高次脳機能障害を理解し、評価・診断・リハビリテーションについて学ぶ					
学修目標 到達目標	1. 高次脳機能障害患者に対する言語聴覚士としての基本的役割を理解することができる 2. 高次脳機能障害の各障害について定義・症状・病巣・発現機序を理解することができる 3. 高次脳機能障害の各障害に対する検査・評価・診断ができる					
授業形態 授業の進め方	講義、小テスト、演習。予習・復習は必ず行うこと。授業態度は評価対象とする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 高次脳機能障害とは				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
2. 記憶障害の定義・症状				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
3. 記憶障害の病巣・発現機序				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
4. 記憶障害の評価・診断1				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
5. 記憶障害の評価・診断2				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
6. 記憶障害のリハビリテーション				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
7. 認知症の定義・症状				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
8. 認知症の病巣・発現機序				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
9. 認知症の評価・診断1				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
10. 認知症の評価・診断2				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
11. 認知症のリハビリテーション				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
12. 遂行機能障害の定義・症状				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
13. 遂行機能障害の病巣・発現機序				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
14. 遂行機能障害の評価・診断				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		

15. 遂行機能障害のリハビリテーション	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
16. 中間試験	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
17. 失認の定義・症状	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
18. 失認の病巣・発現機序	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
19. 失認の評価・診断	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
20. 半側空間無視の定義・症状	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
21. 半側空間無視の病巣・発現機序	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
22. 半側空間無視の評価・診断	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
23. 失行の定義・症状・病巣・発現機序	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
24. 失認の評価・診断	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
25. 失認・失行・半側空間無視のリハビリテーション リハビリテーション	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
26. 注意機能障害	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
27. 前頭葉機能障害	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
28. 外傷性脳損傷による高次脳機能障害	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
29. 復習					
定期試験 (期末レポート)					
30. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 15%	□レポート %	■定期試験 80%	■その他 5%
	基準等	授業内で指示する課題・小テストの結果を評価する。		授業の内容全般についての理解度を評価する。	受講態度
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	石合純夫	「高次脳機能障害学 第2版」		医歯薬出版	2012
参考文献	武田克彦, 村井俊哉	高次脳機能障害の考え方と画像診断		中外医学社	2016
	平山和美	高次脳機能障害の理解と診察		中外医学社	2018
履修要件等	予習・復習は必須。授業内に紹介する参考文献は積極的に購入および習得することが望ましい				
研究室	3号館2階 第30研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10 ~ 13:00	

科目No.	SLD01-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	言語発達障害学 I		担当教員	木村 秀生			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	言語発達障害		必修	1単位	前期(30h)	
授業内容の要約	小児の言語発達障害の中でも主に先天的な疾患による肢体不自由に起因するものについて講義する。その中でも特に脳性麻痺児及び重症心身障害児を中心にとりあげる。運動障害、感覚障害、知的障害など多様な臨床像について理解しコミュニケーション支援の基本的視点を探っていく。						
学修目標 到達目標	1. 脳性麻痺及び重症心身障害児の運動障害や麻痺のメカニズムについて理解する。 2. 脳性麻痺及び重症心身障害児の臨床像を理解し、そのコミュニケーション支援の概要を知る。 3. 脳性麻痺及び重症心身障害児の嚥下障害の概要を知る。						
授業形態 授業の進め方	脳性麻痺児及び重症心身障害児の臨床像を具体的に理解できるように臨床場面の映像の提示とそのもとのディスカッションを実施する。実技演習等もできるだけ活用したいと考えている。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 脳性麻痺概論(定義)			講義内容を復習しノートにまとめる				
2. 脳性麻痺概論(原因)			講義内容を復習しノートにまとめる				
3. 脳性麻痺概論(タイプ分類)			講義内容を復習しノートにまとめる				
4. 運動麻痺の種類と運動麻痺のメカニズム			講義内容を復習しノートにまとめる				
5. PVL(脳室周囲白質軟化症)について			講義内容を復習しノートにまとめる				
6. 脳性麻痺の評価と治療(その1:痙直型)			講義内容を復習しノートにまとめる				
7. 脳性麻痺の評価と治療(その2:アテトーゼ型)			講義内容を復習しノートにまとめる				
8. その他の肢体不自由児			講義内容を復習しノートにまとめる				
9. 肢体不自由児の摂食機能評価と治療(摂食機能の定型発達)			講義内容を復習しノートにまとめる				
10. 肢体不自由児の摂食機能評価と治療(評価)			講義内容を復習しノートにまとめる				
11. 肢体不自由児の摂食機能評価と治療(治療の実際)			講義内容を復習しノートにまとめる				
12. AAC(拡大・代替コミュニケーション)について(ローテク使用)			講義内容を復習しノートにまとめる				
13. AAC(拡大・代替コミュニケーション)について(ハイテク使用)			講義内容を復習しノートにまとめる				
14. AAC(拡大・代替コミュニケーション)について(実技)			講義内容を復習しノートにまとめる				
定期試験(期末レポート)							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)			講義内容の復習				
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等					講義中に配布した資料の内容から出題し理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年	
	無し						
参考文献	三木裕和 ほか	「重症児教育」		クリエイツかもがわ		2004	
履修要件等	言語聴覚障害概論 I・IIが履修済みであることが望ましい。						
研究室	1号館5階 第16研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 14:40~16:10			

科目No.	SLD03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	言語発達障害学Ⅱ		担当教員	高橋 泰子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	言語発達障害		必修	2単位	後期(60h)
授業内容の要約	知的能力障害、自閉スペクトラム症およびその周辺領域の発達障害(特異言語発達障害、ADHDなど)の原因、症状、検査、評価について解説する。また、評価方法の演習を行う。					
学修目標 到達目標	1. 言語発達障害の原因を理解する 2. 言語発達障害の心理・教育的検査が正しく実施できる 3. 言語発達障害の心理・教育的検査の結果、診断と評価ができる 4. 言語発達障害児の症状と、観察のポイントを理解する					
授業形態 授業の進め方	前半は知的能力障害、自閉スペクトラム症とその周辺領域の発達障害について正しく理解できるよう座学中心の講義を行う。後半は検査用具を用いて評価の演習を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 障害の定義、社会的な障害(歴史の変遷)						
2. 知的障害の原因 遺伝子病・配偶子病			「小児科学」と関連させて復習			
3. 知的障害の原因 遺伝子病・配偶子病			「小児科学」と関連させて復習			
4. 知的障害の原因 胎芽期・胎児期の障害			講義の復習			
5. 知的障害の原因 胎児期・周産期の障害			講義の復習			
6. 知能とは何か			「学習・認知心理学」と関連させて復習			
7. 知能を生み出し・支える条件			「学習・認知心理学」と関連させて復習			
8. 知的障害児の早期発見のための検査法、知的障害児の言語特徴			講義の復習			
9. 自閉症の歴史の変遷、定義、症状			講義の復習			
10. 自閉症の歴史の変遷、定義、症状			講義の復習			
11. 自閉症の歴史の変遷、定義、症状			講義の復習			
12. 自閉症の歴史の変遷、定義、症状			過去の国家試験問題を解いてみる			
13. 学習障害の歴史の変遷、定義、症状			講義の復習			
14. 学習障害の歴史の変遷、定義、症状			講義の復習			
15. 学習障害の歴史の変遷、定義、症状			講義の復習			
16. 学習障害の歴史の変遷、定義、症状			過去の国家試験問題を解いてみる			
17. 発達障害の定義、症状			講義の復習			
18. 発達障害の定義、症状			講義の復習			
19. 発達障害の定義、症状			講義の復習			
20. 発達障害の定義、症状			過去の国家試験問題を解いてみる			
21. 知能について、心理・教育的検査の概要(導入)			講義の復習			
22. 心理・教育的診断のためのスクリーニングテストの解説と演習			検査手順を覚える			
23. 心理・教育的診断のためのスクリーニングテストの解説と演習			検査の練習			
24. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-IVの実施手順			検査の練習			
25. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-IVの実施手順			検査の練習			
26. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-IVの実施手順			検査の練習			
27. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-IVの結果の解釈			事例から検査結果を分析・考察する			
28. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-IVの結果の解釈			事例から検査結果を分析・考察する			
29. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-IVの結果の解釈			事例から検査結果を分析・考察する			
定期試験(期末レポート)						
30. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	■定期試験 90%
						■その他 10%

	基準等			授業内容の理解度を評価する。	演習中の参加状況を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	藤田郁代監修 玉井ふみ・深浦順一編集	「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学」第2版		医学書院	2015
参考文献	松本治雄・後上鉄夫編著	「言語障害 事例による用語解説」		ナカニシヤ出版	2000
	小野次朗他編	「よくわかる発達障害」		ミネルヴァ書房	2007
履修要件等	「生涯発達心理学」「言語発達学」が履修済みであることが望ましい。				
研究室	1号館5階 第17研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 10:40~12:10	

科目No.	SHD02-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	聴覚障害のコミュニケーション学		担当教員	馬屋原 邦博		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害		必修	1単位	前期(16h)
授業内容の要約	聴覚障害者(児)のコミュニケーション方法について、補聴器及び人工内耳装用による音声言語手段や読話・筆談などの視覚的手段、および手話言語についての理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 聴覚障害者(児)のコミュニケーション方法のそれぞれの特徴が理解できる 2. コミュニケーション方法の体験を通し、聴覚障害者(児)に対する基本的な対応ができる					
授業形態 授業の進め方	講義とコミュニケーション方法についての実技学習を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 聴覚障害者(児)のコミュニケーション方法			復習: 授業の内容をまとめること			
2. 手話によるコミュニケーション1(指文字)			復習: 実技の内容を復習すること			
3. 手話によるコミュニケーション2(あいさつ・自己紹介)			復習: 実技の内容を復習すること			
4. 手話によるコミュニケーション3(医療に関する手話)			復習: 実技の内容を復習すること			
5. 補聴器・人工内耳などの聴覚補償とコミュニケーション			復習: 実技の内容を復習すること			
6. 読話によるコミュニケーション			復習: 実技の内容を復習すること			
7. 筆談によるコミュニケーションと情報保障			復習: 実技の内容を復習すること			
定期試験						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100 %		<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等			手話読取試験および筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
		授業時にプリントを配布				
参考文献	中村ほか(編)	「聴覚障害学 第2版」		医学書院	2015	
	一番ヶ瀬康子(編)	「聴覚・言語障害者とコミュニケーション 新訂版」		中央法規出版	2010	
履修要件等						
研究室	1号館5階 第19研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00		

科目No.	SHD03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	小児聴覚障害診断学		担当教員	廣瀬 宜礼		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害		必修	1単位	後期(30h)
授業内容の要約	聴覚障害児へ(リ)ハビリテーションと係わりについて学ぶ。聴覚言語学習の指導法、各種コミュニケーション方法を用いた言語指導、養育指導などについて講義や演習を交えながら理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 小児聴覚障害の評価や診断に基づく(リ)ハビリテーションについて理解できる 2. 聴覚障害児の(リ)ハビリテーション計画を立案・実施(演習)できる 3. 指導教材や器具等を作成できる					
授業形態 授業の進め方	パワーポイントによる講義で教科書と配付資料を併用する。グループでケースの演習を行う。聴覚と小児の発達と耳鼻科領域の知識を復習しておく。					
授業計画					授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 聴覚障害の概要 (教科書 P2~14・プリント)			復習を 30分			
2. 乳幼児の身体と精神と聴覚の発達 1 (教 P4~6・プリント)			復習を 30分			
3. 乳幼児の身体と精神と聴覚の発達 2 (教 P120~121・プリント)			復習を 30分			
4. 聴覚の発生・内耳の構造 (教科書 P46~56・プリント)			復習を 30分			
5. 聴覚の構造と機能 伝音系 (教科書 P58~61・プリント)			復習を 30分			
6. 聴覚の構造と機能 感音系 (教科書 P61~65・プリント)			復習を 30分			
7. 遺伝性難聴 (教科書 P66~67・プリント)			復習を 30分			
8. 難聴児者の発声発語の評価 (教科書 P137~140・プリント)			復習を 30分			
9. 難聴発症時期と程度による評価 (教科書 P141~143・プリント)			復習を 30分			
10. 小児聴力の評価と診断 (BOA・COR・ピープショーテスト) (教科書 P106~119・プリント)			復習を 30分			
11. 小児聴力の評価と診断 (PlayAudio・ABR・OAE・新生児聴覚スクリーニング) 同上			復習を 30分			
12. 人工内耳装用児の聴覚評価 (IT-MAIS、CI-2004) (教科書 P199~227・プリント)			復習を 30分			
13. 人工内耳・人工中耳・人工脳幹 (教科書 P199~227・プリント)			復習を 30分			
14. 社会保障制度と聴覚障害児教育 (教科書 P347~・プリント)			復習を 30分			
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	■レポート 10%	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	授業内の小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する	与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する	定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	藤田郁代監修	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」第2版		医学書院	2015	
参考文献	宇佐美真一	「きこえと遺伝子」第2版		金原出版	2016	
	立木 孝	聴覚検査の実際 第3版		南山堂	2011	
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	SHD04-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	成人聴覚障害診断学		担当教員	馬屋原 邦博			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	聴覚障害		必修	1単位	後期(30h)	
授業内容の要約	成人聴覚障害者の障害状況を知り、障害軽減・解消のための対策を考え、社会参加を促すための方法を考え、学ぶ。						
学修目標 到達目標	1. 成人の聴覚障害の種類と原因が理解できる 2. 成人の聴覚障害の評価の方法が理解できる 3. 成人聴覚障害者の心理とコミュニケーション方法が理解できる						
授業形態 授業の進め方	教科書にそって、講義を中心に進める。検査、評価方法について実技を適宜行う。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 聴覚の機能と聴覚障害 (障害が生じた時期と現在のライフステージ) (教科書 p.7~14)			復習：授業の範囲をまとめる				
2. 成人聴覚障害の種類と原因① (教科書 pp.58~65)			復習：授業の範囲をまとめる				
3. 成人聴覚障害の種類と原因② (教科書 pp.58~65)			復習：授業の範囲をまとめる				
4. 聴覚障害者のリハビリテーション (教科書 pp.18~20)			復習：授業の範囲をまとめる				
5. 情報収集と評価 (教科書 pp.58~65)			復習：授業の範囲をまとめる				
6. 聴覚検査 (教科書 pp.75~106)			復習：授業の範囲をまとめる				
7. 聴覚の評価 (教科書 pp.148~151)			復習：授業の範囲をまとめる				
8. 質問紙等によるコミュニケーション評価 (教科書 pp.151)			復習：授業の範囲をまとめる				
9. コミュニケーション方法の評価① (教科書 pp.151~155)			復習：授業の範囲をまとめる				
10. コミュニケーション方法の評価② (教科書 pp.151~155)			復習：授業の範囲をまとめる				
11. コミュニケーション方法の評価③ (教科書 pp.156~157)			復習：授業の範囲をまとめる				
12. 先天性聴覚障害者と日本語運用力の評価 (教科書 pp.155~156)			復習：授業の範囲をまとめる				
13. 成人聴覚障害者の心理社会面の評価 (教科書 pp.157~159)			復習：授業の範囲をまとめる				
14. ニーズの確定と目標設定 (教科書 pp.159~160)			復習：授業の範囲をまとめる				
定期試験							
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100 %	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等					筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年		
	中村ら (編)	「聴覚障害学 第2版」		医学書院	2015		
参考文献	喜多村健ほか	「言語聴覚士のための聴覚障害学」		医歯薬出版	2002		
	山田弘幸 (編)	「改訂聴覚障害Ⅱ - 臨床編」		建帛社	2008		
履修要件等	「聴力検査法」を履修していることが望ましい。						
研究室	1号館5階 第19研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00			

科目No.	SCP04-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床ゼミⅡ (ST)		担当教員	馬屋原 邦博 / 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必修	1単位	前期 (30h)
授業内容の要約	実習時に必要な簡単な検査の実技や、介助方法などを学習する。					
学修目標 到達目標	1. 課題を自分で調べ、まとめることができる 2. 自分が調べたこと、まとめたことを分かりやすく伝えることができる 3. 実習時に必要な検査や介助等を正しく行うことができる					
授業形態 授業の進め方	提示された項目について、調べてまとめ、発表を行う。 実技練習も含む。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. オリエンテーション				復習：授業の趣旨を理解すること		
2. 血圧について調べる ①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
3. スポーツ活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク						
4. 血圧についての発表と実技 ②				復習：今日の内容についてまとめる		
5. 呼吸・最長発声持続時間について調べる ①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
6. 呼吸・最長発声持続時間についての発表と実技 ②				復習：今日の内容についてまとめる		
7. 車いすの扱い・車いす使用者の介助について調べる ①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
8. 車いすの扱い・車いす使用者の介助についての発表と実技 ②				復習：今日の内容についてまとめる		
9. フリートークの題材について調べる ①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
10. フリートークの題材について発表 ②				復習：今日の内容についてまとめる		
11. フリートークの練習				復習：今日の内容についてまとめる		
12. 特別支援教育について調べる ①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
13. 特別支援教育について調べる ②				復習：今日の内容についてまとめる		
14. 支援学校見学準備				復習：支援学校見学の諸注意をまとめる		
15. 総括及びフィードバック（全講義のふりかえり）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	■レポート 80%	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等	調べたことの発表内容等について評価する。	実技を行ったことについて毎回レポートを課す。			
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
		特になし				
参考文献		特になし				
履修要件等						
研究室	1号館5階 第19研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00		

科目No.	SCP05-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅱ (S T)		担当教員	馬屋原 邦博 / 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必修	1単位	後期(30h)
授業内容の要約	臨床基礎実習に向け、これまでに履修した言語聴覚障害、摂食嚥下障害についての基礎的知識等をベースに専門職としての視点で観察記録を作成する					
学修目標 到達目標	1. 対象児・者の全体像、症状および訓練の観察・記録方法を修得する 2. 専門用語を用いて観察記録が書ける 3. 言語聴覚障害・摂食嚥下障害の特徴を理解し、鑑別できる					
授業形態 授業の進め方	言語聴覚学専攻教員が各自の専門分野を分担して学習を進める。 臨床基礎実習を念頭におき、積極的に学習すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 観察記録の書き方(総論)【馬屋原】			復習: 今日の内容をまとめる			
2. 観察記録の書き方(失語症 ①)【芦塚】			復習: 今日の内容をまとめる			
3. 観察記録の書き方(失語症 ②)【芦塚】			復習: 今日の内容をまとめる			
4. 観察記録の書き方(構音障害・音声障害 ①)【和田】			復習: 今日の内容をまとめる			
5. 観察記録の書き方(構音障害・音声障害 ②)【和田】			復習: 今日の内容をまとめる			
6. 観察記録の書き方(嚥下障害)【和田】			復習: 今日の内容をまとめる			
7. 観察記録の書き方(小児 ①)【木村】			復習: 今日の内容をまとめる			
8. 観察記録の書き方(小児 ②)【高橋】			復習: 今日の内容をまとめる			
9. 解剖学実習見学事前学習*			復習: 今日の内容をまとめる			
10. 解剖学実習見学*			復習: 今日の内容をまとめる			
11. 臨床基礎実習準備①【馬屋原】			復習: 今日の内容をまとめる			
12. 臨床基礎実習準備②【馬屋原】			復習: 今日の内容をまとめる			
13. 臨床見学 ①* (特別支援学校見学) (9月中)			復習: 今日の内容をレポートにまとめる			
14. 臨床見学 ②* (特別支援学校見学) (9月中)			復習: 今日の内容をレポートにまとめる			
15. 臨床見学 ③* (クリニック見学)			復習: 今日の内容をレポートにまとめる			
*見学日時等は実習先と調整のうえ決定する。						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input checked="" type="checkbox"/> レポート 100%	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input type="checkbox"/> その他 %	
	基準等	臨床見学についてのレポートを課す。				
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	※「大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻: 実習の手引き」					
参考文献	藤田郁代	「言語聴覚障害学概論」		医学書院	2010	
	大森孝一ほか	「言語聴覚士テキスト 第3版」		医歯薬出版	2018	
履修要件等	「臨床ゼミⅡ」が履修済であることが望ましい。					
研究室	1号館5階 第19研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00		

科目No.	SCP06-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次			
授業科目名	臨床基礎実習 (S T)		担当教員	馬屋原 邦博 / 言語聴覚学専攻教員					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	言語聴覚学	臨床実習		必修	1単位	後期(40h) 1週間			
授業内容の要約	医療・介護・福祉・教育機関において、言語聴覚・摂食嚥下障害のある方の実態と言語聴覚士の業務内容を見学し、対象児・者に対する言語聴覚士の基本的態度、ニーズの把握とその解決に必要な支援の方法、関連職種の職務内容等の概略を学ぶ。								
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション従事者としての職責を自覚し指導者、対象児・者に対する基本的態度を身につける</li> <li>2. 医療・介護・福祉・教育機関の概要とそこでの言語聴覚士の職務内容を理解する</li> <li>3. 言語聴覚障害・摂食嚥下障害のうち主要なものについて、その特徴を理解し鑑別できる</li> <li>4. 対象児・者の全体像、症状および訓練を観察し、症状や反応などが記録できる</li> <li>5. 関連職種の職務内容の概要を知り、職種間連携について理解する</li> </ol>								
授業形態 授業の進め方	<p>実習日誌は実習中毎日作成・提出し指導言語聴覚士の校閲・指導を受ける。実習終了時は一括して大学に提出する。</p> <p>実習終了時は実習報告レポート等を作成し、実習指導者と大学に提出する。</p> <p>大学において実習報告会で発表する。</p>								
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上				
<b>【臨床基礎実習】</b> ・医療・介護・福祉・教育機関において、見学・観察・記録・考察を行い、実習指導者の指導・助言を受ける。			実習前：臨床実習に必要な準備 実習中：観察した症例の記録、不明な点を調べる 実習後：実習報告会の準備等						
<b>【臨床基礎実習報告会】</b> ・実習内容の記録、目標に対する結果、考察、今後の課題等をレポートにまとめ、報告会で発表する。 ・相互の実習体験を共有し、臨床評価実習の基盤とする。									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	50%	□定期試験	%	■その他	50%
	基準等			提出物(必要書類・日誌・レポート・実習報告書等)				実習前指導・実習中・実習報告会における出席・学習の状況、実習指導者による評価等を総合する。	
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年		
	※「大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻：実習の手引き」								
参考文献	藤田郁代	「言語聴覚障害学概論」			医学書院		2010		
	大森孝一ほか	「言語聴覚士テキスト 第3版」			医歯薬出版		2018		
履修要件等	実習要件を満たしていること。「臨床ゼミⅡ」「臨床実習指導Ⅱ」が取得できていること。								
研究室	馬屋原：1号館5階 第19研究室			オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00				